

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻

臨床統計家育成コース 授業一覧

2025 年 4月

目次

臨床統計家育成コースの概要(「2024 年度 社会健康医学系専攻シラバス」より)	1
○MPH コア科目	
・コア必修	
領域1 疫学 I (疫学入門)	6
領域1 疫学 II (研究デザイン)	8
領域2 医療データ科学	10
・コア選択必修	
領域3 感染症疫学	12
領域3 産業・環境衛生学	14
領域4 医療制度・政策・経済	16
領域4 社会健康医学と健康政策	19
領域5 医学コミュニケーション・基礎	21
領域5 基礎医療倫理学	23
領域5 社会疫学	25
領域5 行動科学	29
領域6 レジリエントな社会づくりのイノベーション:展望・自由提言	31
領域6 健康危機管理の制度政策と実践	33
領域6 健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ	35
領域6 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	37
領域6 感染症数理モデル入門	39
・コア推奨選択	
領域4 保健・医療の経済評価	41
領域4 医薬政策・行政	44
○医学科目(医療系学部出身者以外必修)	
医学基礎 I	
生理学I, 神経生理学, 解剖学, 基礎人類遺伝学	46
医学基礎 II	55
臨床医学概論	57
○臨床統計家育成コース必修科目	
生存時間解析	60
統計モデルとその応用	62
統計家の行動基準	64
統計的推測の基礎	66
臨床試験	68
臨床試験の統計的方法	70
臨床研究データ管理学	72
臨床研究実地研修 I	74
臨床研究実地研修 II	76
データ解析の方法	78
医療データ科学実習	80
解析計画実習	82
○臨床統計家育成コース推奨選択科目	
統計的推測の基礎・演習	84
臨床統計家の実務スキル	86
健康情報学 I	88
健康情報学 II	90
医薬品の開発と評価	92
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	94
多重性の考え方	96
文献検索法	98
文献評価法	100
メタアナリシス	102

Ⅲ. 臨床統計家育成（CB）コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

（１）学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則（ICH E9 ガイドライン）」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

（２）本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された２年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士（専門職）が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を２年間で体系的に学習できるよう、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job training による臨床研究に関する実地研修を提供する（１年次・２年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ）。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

（３）修了要件

【2024 年度以前入学者】

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域（コア領域 1－5 のすべての領域を含むこと）	1 0	1 0
医学基礎Ⅰ（注１）、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	1 9	1 9
課題研究	4	4
合計	3 3	3 9

【2025 年度以降入学者】

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 6 領域（コア領域 1－6 のすべての領域を含むこと）	1 0	1 0
医学基礎Ⅰ（注１）、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	1 9	1 9
課題研究	4	4
合計	3 3	3 9

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校の出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

（注１）「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）」「医学基礎Ⅰ（神経生理学）」「医学基礎Ⅰ（解剖学）」あるいは「医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）」のいずれかを履修すること。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

令和7年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	開講期間	主担当教員	単位	レベル	備考
コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ（疫学入門）	前期前半	中山	1	基礎	
	H119000	領域1 疫学Ⅱ（研究デザイン）	前期前半	山本	1	基礎	
	H174000	領域2 医療データ科学	前期すべて	松井	2	基礎	科目名変更
コア 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	前期後半	西浦	1	基礎	
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	前期前半	西浦	1	基礎	
	H166000	領域4 医療制度・政策・経済	前期すべて	今中	2	基礎	
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	前期すべて	健康政策の運営委員会	2	基礎	
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	前期前半	岩隈	1	基礎	
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	前期前半	井上	1	基礎	
	H157000	領域5 社会疫学	前期すべて	近藤	2	基礎	
	H075000	領域5 行動科学	前期前半	田近	1	基礎	
	H173M01	領域6 レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言	通年	今中	2	応用	
	H170M01	領域6 健康危機管理の制度政策と実践	通年	今中	1	応用	
	H172000	領域6 健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ	前期	今中	1	応用	
	H169000	領域6 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	通年集中	中山	1	応用	
	H161000	領域6 感染症数理モデル入門	前期	西浦	2	応用	
MPH 必修	H007000	医学基礎Ⅱ	後期すべて	近藤	2	基礎	「医療系」以外の出身者のみ必修。（医療系は選択）
	H008000	臨床医学概論	後期すべて	近藤	2	基礎	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	前期	小川	2	基礎	「医療系」以外の出身者のみ、4科目のうちいずれか1科目必修
	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	前期前半	近藤	2	基礎	
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）	後期後半	近藤	2	基礎	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	前期前半	近藤	2	基礎	
必修	H137000	生存時間解析	後期集中	大森	1	中級	
	H138000	統計モデルとその応用	後期集中	大森	1	中級	
	H134000	統計家の行動基準	前期集中	松井	1	応用	
	H136000	統計的推測の基礎	前期すべて	大森	2	中級	
	H112000	臨床試験	前期すべて	田中	2	中級	
	H135000	臨床試験の統計的方法	後期前半	田中	1		
CB 限定 必修	K025000	臨床研究データ管理学	後期前半	中尾葉子	1	応用	
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ	通年集中	田中	2	応用	
	H147000	臨床研究実地研修Ⅱ	通年集中	田中	2	応用	
	H176000	データ解析の方法	後期すべて	松井	2	中級	科目名変更

	H175000	医療データ科学実習	前期すべて	松井	2	中級	科目名変更
	H022000	解析計画実習	後期すべて	松井	2	応用	
推奨 選択	H144000	統計的推測の基礎・演習	前期すべて	大森	1	中級	
	H139000	臨床統計家の実務スキル	前期すべて	大森	1	基礎	
	H130000	健康情報学Ⅰ	後期すべて	中山	2	中級	
	H151000	健康情報学Ⅱ	後期すべて	高橋	2	中級	
	H079000	医薬品の開発と評価	後期後半	川上	1	中級	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	後期すべて	川上	2	応用	
	H145000	多重性の考え方	前期前半	松井	1	中級	
	H093000	文献検索法	前期前半	高橋	1	基礎	
	H094000	文献評価法	前期後半	中山	1	基礎	
	H126000	領域４ 保健・医療の経済評価	前期前半	今中	1	中級	
	H109000	領域４ 医薬政策・行政	後期前半	川上	1	中級	
	H146000	メタアナリシス	前期集中	田中	1	応用	
CB 限定 選択							
選択	H167000	QOL・PRO 評価法	後期	山本	1	中級	
	M001000	アントレプレナーシップ	前期すべて	寺西	2	基礎	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	前期集中	早乙女	2	応用	
	Z203M01	グローバルヘルス通論	後期すべて	中山	2	中級	
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	前期後半	中山	1	基礎	
	H032000	ベンチトレーニングコース	通年集中	原田	2	応用	
	H020000	人間生態学	後期すべて	坂本	2	基礎	
	H177000	保健活動論	後期前半	近藤	2	応用	科目名変更
	H143000	健康デザイン論	通年集中	中山	1	応用	
	H171000	健康・予防医療学領域の実装科学	後期すべて	石見	2	中級	
	H178M01	健康危機管理セミナー	通年集中	今中	2	応用	2025 年度新規開講
	H179M01	公共政策と健康危機管理	後期集中	今中	1	応用	2025 年度新規開講
	M120000	創薬医学特論	後期	早乙女	1	応用	
	M119000	医療ビジネス・イノベーション概論	前期すべて	早乙女	2	基礎	
	N024000	医療倫理学各論	後期	井上	2	応用	
	H103000	医療社会学・基礎	前期後半	岩隈	1	基礎	
	H040000	基礎人類遺伝学	前期	小川	2	基礎	
	M004000	契約実務演習	後期すべて	鈴木	2	基礎	
	H162000	毒性科学	通年集中	原田	2	基礎	
	H181M01	災害時の保健医療福祉における情報管理・活用	通年集中	今中	1	応用	2025 年度新規開講

H180M01	災害時の避難生活支援	通年集中	今中	1	応用	2025 年度新規開講
M024000	特許法特論・演習（前期）	前期すべて	高山	2	基礎	
M025000	特許法特論・演習（後期）	後期すべて	田中	2	中級	
H152000	環境・感染症論	後期すべて	山崎	2	中級	
H159000	環境曝露・リスク評価	通年集中	原田	2	中級	
M007000	知的財産法演習	後期すべて	當麻	2	中級	
M017000	知的財産経営学基礎	前期すべて	早乙女	2	基礎	
H061000	社会健康医学課外実習	前期集中	所属分野の指導教員等	1 または 2	—	
N023000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	前期	小川	2	基礎	
H142000	行政医学・産業医学	前期	今中	2	応用	
H160000	質的研究・演習	通年	岩隈	2	中級	
H156000	質的研究入門	前期後半	中山	1	基礎	
N017000	遺伝医学特論（集中講義）	前期集中	川崎	2	応用	
N015000	遺伝医療と倫理・社会	前期	川崎	2	基礎	
H129000	医療の質評価	—	—	1	中級	2025 年度は開講せず
S004000	統計遺伝学Ⅰ	—	—	2	中級	開講未定
S005000	統計遺伝学Ⅱ	—	—	2	中級	開講未定
H063000	フィールドワーク	—	—	2	中級	2025 年度は開講せず

[レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

推奨選択は必修・選択の区分に関わらずコースとして推奨される科目。

- 医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。
- 2023 年度までに「メディカル分野技術経営学概論」の単位を取得した学生は、「医療ビジネス・イノベーション概論」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2023 年度までに「ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言」の単位を取得した学生は、「レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2024 年度までに「医療統計学」の単位を取得した学生は、「医療データ科学」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2024 年度までに「交絡調整の方法」の単位を取得した学生は、「データ解析の方法」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2024 年度までに「地域保健活動論」の単位を取得した学生は、「保健活動論」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2024 年度までに「医療統計学実習」の単位を取得した学生は、「医療データ科学実習」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。
- 2024 年度までに「医療倫理学各論（科目コード：N018000）」の単位を取得した学生は、「医療倫理学各論（科目コード：N024000）」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 前年度以前開講科目の科目変更については、「（別表 3）科目変更対応表」を確認すること

学事要綱 臨床統計家育成（CB）の区分の訂正

2025 年 4 月 8 日

19 単位を修了要件としている「臨床当家家育成コース必修」科目が 15 単位分しかないと判明した。以下の正誤表のとおり 5 科目の区分を訂正する。

正誤表

科目コード		単位	(誤) 区分	(正) 区分
H144000	統計的推測の基礎・演習	1	CB 限定必修	CB 推奨選択
H139000	臨床統計家の実務スキル	1	CB 限定必修	CB 推奨選択
H176000	データ解析の方法	2	選択	CB 限定必修
H175000	医療データ科学演習	2	選択	CB 限定必修
H022000	解析計画実習	2	選択	CB 限定必修

科目ナンバリング		P-PUB01 8H118 LB90			
授業科目名 <英訳>	疫学 I (疫学入門) 【領域1】 Epidemiology I		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 滋賀医科大学 教授 三浦 克之 京都市保健福祉局 担当部長 石崎 達郎 静岡社会健康医学大学院大学 田原 康玄 教授	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	金3・4	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。 ・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。					
[到達目標]					
・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。 ・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。					
[授業計画と内容]					
第1回 4月11日 (3限) イントロダクション (中山) 第2回 4月11日 (4限) コホート研究・症例対照研究 (中山) 第3回 4月18日 (3限) 介入研究 (中山) 第4回 4月18日 (4限) 追跡型研究 (中山) 第5回 4月25日 (3限) 観察データでの因果推論 (福間・中山) 第6回 4月25日 (4限) 疫学をめぐる最近の話題：倫理・政策と疫学・ビッグデータ (中山) 第7回 5月2日 (3限) 高齢者の疫学研究 (石崎) 第8回 5月2日 (4限) 視聴覚教材「大いなる航海」 (中山) 特別講義予定あり (三浦・田原)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
最終レポート (相互閲覧) (80%)、毎回の小レポート (20%)					
[教科書]					
講義資料は配布					
[参考書等]					
(参考書) 川村孝 『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院 2003年) 疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)へ続く↓↓↓					

疫学 I (疫学入門) 【領域1】(2)

ISBN:978-4260127127

矢野栄二・橋本英樹 翻訳『ロスマンの疫学 第2版』(篠原出版新社 2013年) ISBN:978-4884123727

厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向 2024/2025』(厚生統計協会 2024年) ISBN:978-4875119203

ロドルフォ・サラッチ著『読んでわかる! 疫学入門』(大修館書店 2019年) ISBN:978-4469268584

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。

(その他(オフィスアワー等))

- ・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。
- ・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。
- ・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。
- ・特別講義の予定は初回の講義で説明します。

人間健康科学系専攻学生の受講可否:可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H119 LB90						
授業科目名 <英訳>	疫学 I I (研究デザイン) 【領域1】 Epidemiology II			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	山本	洋介
					医学研究科	准教授	小川	雄右
						非常勤講師	土方	保和
						非常勤講師	三品	浩基
				医学研究科	特定助教	板谷	崇央	
配当学年		専門職		単位数		1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	金1,2	授業形態		講義 (対面授業科目)		使用言語	日本語及び英語	
[授業の概要・目的]								
※ 状況により、オンライン授業で実施することがあります。								
社会健康医学領域の研究デザインに必要な理論や基本的知識を、実例を交えて学びます。 なお、質的な研究は含まれません。								
[到達目標]								
・自分の疑問をリサーチクエスチョンに構造化できる。 ・様々な研究事例にふれ、自身の研究を着想するための基礎となる知識を身につける。								
[授業計画と内容]								
1) 4/25 (1限) イントロダクション・研究デザインとは (山本) 2) 4/25 (2限) リサーチクエスチョンの構造化 (小川) 3) 5/9 (1限) リサーチクエスチョンの構造化：実習 (小川・板谷・山本) 4) 5/9 (2限) リサーチクエスチョンの構造化：実習 (小川・板谷・山本) 5) 5/23 (1限) 調査研究法(山本) 6) 5/23 (2限) 事例：質問票を用いた研究 (三品・山本) 7) 6/6 (1限) メタアナリシス・システマティックレビューの概要(小川) 8) 6/6 (2限) Directed Acyclic Graph (DAG) の活用 (小川) 9) 6/20 (1限) 診断研究・予後予測指標に関する研究 (土方) 10) 6/20 (2限) 分割時系列デザインを用いた研究 (板谷) 11) 7/4 (1限) テスト								
[履修要件]								
・ MPHコア (必修) MCR必修科目 ・ 「疫学 I」を履修中あるいは履修済であることが履修要件です。								
[成績評価の方法・観点]								
・ 平常点 (講義への主体的な参加) 60% ・ テスト 40%								
・ 成績評点の種別 (6段階)								
[教科書]								
授業中に指示する								
-----疫学 I I (研究デザイン) 【領域1】 (2)へ続く↓↓↓								

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は必要ないが、復習を充分行うこと。

(その他（オフィスアワー等）)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H174 LB90			
授業科目名 <英訳>	医療データ科学 【領域2】 Biomedical Data Science		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
疾患の予防、診断、治療の方法を評価する際に必要となるデータ科学の基本について学びます。数 学的、技術的なことには立ち入らず、平易な言葉で、データ科学の基本的な考え方を中心に解説し ます。					
[到達目標]					
・人を対象とした研究におけるデータ科学の基本的な視点を身につける。 ・社会健康医学研究の目的に応じた基本的な研究デザインとデータ解析の方法を理解でき、それら の課題・限界について考察できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 (4/8) イントロダクション、医学・医療におけるデータ科学の貢献、基本概念 第2回 (4/15) 因果関係の評価、コントロールの必要性和選択 第3回 (4/22) 観察的研究のデザイン 第4回 (5/13) 実験的研究のデザイン 第5回 (5/20) 記述統計、関連性の指標 第6回 (5/27) 統計的推測 第7回 (6/3) 研究に必要なサンプルサイズ 第8回 (6/10) 探索と検証、NEJMの統計ガイドライン 第9回 (6/17) 診断・予後に関する研究1 第10回 (6/24) 診断・予後に関する研究2 第11回 (7/1) 統計モデリングの基礎 第12回 (7/8) 判別・予測、機械学習の基礎 第13回 (7/15) 判別・予測精度の評価 第14回 (7/22) 研究報告の各種ガイドライン					
[履修要件]					
・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。 ・受講者は単位不要でもミニテストを受けてください。 ・「医療データ科学（コア）」を履修していないと後期「データ解析の方法」は履修できません。 ・医科学専攻、医学博士課程の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください。					
-----医療データ科学 【領域2】 (2)へ続く↓↓↓					

医療データ科学 【領域2】 (2)

[成績評価の方法・観点]

・講義内のミニテスト（80％）。ディスカッションへの積極的な参加（20％）。理解度を素点（100点満点）で評価する。

[教科書]

講義前にスライド資料などをPandAにアップします(第2回目以降)。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習のため講義の前の週の金曜までに講義資料をアップします。復習も充分行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H070 LB90			
授業科目名 <英訳>	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	木 2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
This module clearly explains fundamental concepts of infectious disease epidemiology and sets out the analytical methods employed in public health practice. The contents of the lecture series covers the concept/definition of various epidemiological measurements, assessment of the spread and control of infectious diseases using a variety of statistical methods, statistical estimation of key epidemiological indices, and introduces mathematical modeling of infectious diseases. This vast and important area of epidemiology is described in line with recent and ongoing health concerns such as HIV/AIDS, tuberculosis, malaria, dengue, SARS and influenza.					
[到達目標]					
a. Explain two special characteristics of infectious diseases, b. Explain public health importance of asymptomatic infection c. Describe and classify various epidemiological risks of infection and death, d. Describe the concept of herd immunity and its importance in public health practice and epidemiologic exercise, e. Describe the concept of early detection of outbreak in a sense of hypothesis testing, f. Describe the fundamental concept and method of using historical baseline, g. Explain how each of the following methods detects an outbreak: regression method, time series technique and scan statistic					
[授業計画と内容]					
Please be informed that the first lecture in 2025 is 5 June from 10:30. Each session takes 90 minutes in total. First 60 minutes are spent for unidirectional lecture. Remaining 30 minutes are split into two parts, i.e., 15 minutes in-class assessment and 15 minutes scoring session plus Q&A. 1. Introduction: mechanisms and epidemiological measurements of infectious diseases 2. Natural history of infectious diseases 3. Measuring transmissibility and severity: Concept and definition 4. Outbreak investigation (1): active surveillance data 5. Estimating prevalence: Unobservable nature of infection event 6. Vaccine efficacy: Addressing dependent happening 7. Outbreak investigation (2): notification data 8. Tutorial, followed by exam					
[履修要件]					
Have a background with basics of epidemiology (e.g. MPH core curriculum)					
----- 感染症疫学 【領域3】 (2)へ続く↓↓↓					

感染症疫学 【領域3】(2)

[成績評価の方法・観点]

Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination.
Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).

[教科書]

西浦博（編）『感染症疫学のためのデータ分析入門』（金芳堂、2021）ISBN:978-4-7653-1882-2（感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。）

[参考書等]

（参考書）

西浦博（編）『感染症流行を読み解く数理』（日本評論社、2022）ISBN:978-4-535-78759-9（感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。）

[授業外学修（予習・復習）等]

No specific preparation would be required. At the end of each session, we will have in-class assessment consisting of approximately 5-8 multiple choice questions.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H124 LB90			
授業科目名 <英訳>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	木2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
1) ヒトの健康と環境とのかかわりについて、健康被害を基にメカニズムを理解すること。 2) 大気、水、土、さらに食品などの環境から様々な有害な化学物質を取り込む仕組みについて説明可能になること。 3) 中毒量がどのように定まっているのか、また、健康影響がどのように同定されているのか、基本的な知識と考え方を修得すること。 This module introduces health-related problems in relation to environment, focusing on mechanisms by which human health is damaged. Participants are advised to understand and describe how the natural environment including air, water and land as well as foods are associated with potential harmful chemical substance to humans. Moreover, toxicological assessment of reference dose and how the health effect is evaluated is reviewed.					
[到達目標]					
1) 健康と生存環境（一般生活環境と産業職場）あるいは自然環境との関係について基礎理論や事例分析、疫学的分析などを通じて十分に理解すること。 2) 公害や環境汚染を含む環境問題と健康の関わり、放射線被害の実態、労働における健康問題に関して弱者の立場を受容し、それらに対してわが国がどう対応してきたのかを記述できること。 3) 感染症あるいは中毒の患者が発生した際に、公衆衛生専門家として実施すべき行動を自発的に考え、理路整然と具体的な行動を述べるができること。 4) 社会医学的問題を肌で感じ、問題解決の現場に触れ、それを通じて、より良い社会の在り方について考え、仮想的に創造すること。 1. To understand how the health and environment are influencing each other via important examples of public nuisance in humans. 2. To describe how humans have faced public nuisance, environmental exposures including radiation and occupational hazards. 3. To logically explain how public health experts can take actions against infectious diseases and exposure accident with a toxic substance. 4. To simulate ideal future society by touching upon existing problems in social medicine and their solutions.					
[授業計画と内容]					
2025年度は第1回講義は4月10日（木）10:30とするので注意すること。 全8回で構成する。 1) 環境保健学総論 2) 中毒学概論 3) 環境汚染の評価、公害 4) 放射線と健康 5) 産業保健入門 6) 住環境・騒音・振動、廃棄物と環境・健康、水質・水質汚濁 7) 食中毒と食品保健					
産業・環境衛生学 【領域3】 (2)へ続く↓↓↓					

産業・環境衛生学 【領域3】(2)

8) 化学物質の管理

Lectures. In total, there will be eight sessions.

1. Introduction to environmental medicine.
2. Toxicology
3. Environmental assessment and public nuisance
4. Radiation
5. Introduction to occupational health
6. Living environment, sound, environmental pollution and health
7. Food poisoning and food hygiene
8. Management of chemical substance

[履修要件]

MPHコア選択

[成績評価の方法・観点]

出席回数が3分の2に相当する6回以上を満たし、十分に内容を理解していることを講義中の個別質問で確認し、また、最終試験を実施することで修了を判定します。

Mandatory to attend two-thirds of sessions (i.e. attendance to a minimum of 6 lectures). Evaluations will be made by individual interviews during classes and final exam.

[教科書]

講義中の配布資料。

[参考書等]

(参考書)

以下、参考にされて下さい。

CURRENT Occupational & Environmental Medicine: Fourth Edition / Joseph LaDou : McGraw-Hill Medical, 2006, ISBN:978-0071443135

[授業外学修（予習・復習）等]

地球環境問題および化学などの知識は必ずしも必要ではありませんが、適宜、一般常識レベルで学習されることを求めます。

(その他（オフィスアワー等）)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H166 LB90						
授業科目名 <英訳>	医療制度・政策・経済【領域4】 Healthcare System, Policy and Economics			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	今中	雄一
					医学研究科	特定准教授	佐々木	典子
					医学研究科	准教授	國澤	進
					医学研究科	特定助教	後藤	悦
					医学研究科	特定講師	高田	大輔
医学研究科	特定助教	糸島	尚					
配当学年	専門職	単位数		2	開講年度・開講期		2025・前期	
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語	日本語		
[授業の概要・目的]								
医療に関する政策・制度・経済について、国、地域・自治体、医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。								
<内容> ・医療・福祉や健康な社会づくりに向けての政策、制度、経済 ・医療システムの把握、評価、向上 ・データ、情報、エビデンスと制度政策 ・医療の質・安全や経済性の評価やマネジメントシステムに関する政策 ・地域医療計画など医療・介護・健康に関連する諸計画 ・保健医療における行動経済学								
[到達目標]								
・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようになること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。								
[授業計画と内容]								
1 4月9日医療の制度政策概論（1）医療と市場、医療医療システムの把握I								
2 4月16日医療の制度政策概論（2）医療の質、医療システムの把握II								
3 4月23日医療の質の指標化（QI、CI）								
4 4月30日 医療におけるEvidence-Based Policy								
5 5月14日諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用								
6 5月21日健康の決定要因								
7 5月28日医師の偏在と確保：実態と政策								
8 6月4日情報システムと医療管理・政策								
9 6月11日安全・質向上のための保健医療システムとUHCの強化								
10 6月25日医療・健康データの活用と政策								
11 7月2日 地域医療システムと大規模データの活用								
12 7月9日 高齢者医療の課題と政策								
13 7月16日行動経済学の理論と健康関連領域への応用								
14 7月23日行動経済学の実社会への応用								
15 7月30日医療システムの把握III								
-----医療制度・政策・経済【領域4】(2)へ続く↓↓↓								

医療制度・政策・経済【領域4】(2)

＊ 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。

[履修要件]

原則、出席80%以上を前提とする

＊同一科目設定：

2022年度までに「医療制度・政策」、「世界における医療制度・政策」、「行動経済学と健康医療介護」3科目（各1単位）のすべてを取得した学生は、本科目を履修できません。単位の無い聴講を希望する場合は、医療経済学分野まで別途連絡をしてください。

[成績評価の方法・観点]

1. レポート 60%
2. 日々の講義へのコミットメント 40%

【素点素点(100点満点)評価】

[教科書]

授業中に指示する

適宜、資料を講義にて配布する

[参考書等]

(参考書)

『今中雄一編. 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023）

『病院の教科書第2版』（医学書院）

『医療制度・医療政策・医療経済』（丸善出版,2013）

『医療の原価計算』（社会保険研究所,2003）

『医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策』（医学書院,2005）

『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』（南江堂. 2018.）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の該当部分やPandAにアップされた資料を読み、関心のもてる事項は各自深めること。（予習・復習とも）

医療制度・政策・経済【領域4】(3)へ続く↓↓↓

医療制度・政策・経済【領域4】(3)

(その他(オフィスアワー等))

当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています(医療経済学分野：<http://med-econ.umin.ac.jp>)

※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H127 LB90									
授業科目名 <英訳>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	今中	雄一			
					医学研究科	准教授	田近	亜蘭			
					医学研究科	特定教授	早乙女	周子			
					医学研究科	教授	近藤	尚己			
					医学研究科	教授	西浦	博			
					医学研究科	教授	中山	健夫			
					医学研究科	教授	井上	悠輔			
					東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本	龍太			
					医学研究科	教授	川上	浩司			
					医学研究科	准教授	岩隈	美穂			
					医学研究科	教授	石見	拓			
					医学研究科	教授	山本	洋介			
					医学研究科	教授	松井	茂之			
					医学研究科	教授	久保	達彦			
医学研究科	特定助教	糸島	尚								
配当学年		専門職		単位数		2	開講年度・開講期		2025・前期		
曜時限		木3		授業形態		講義（対面授業科目）		使用言語		日本語及び英語	
[授業の概要・目的]											
社会健康医学（Public Health）における、健康・医療に関わる制度・政策、ならびにそれらに貢献・関連する研究、人材育成、その他の専門的活動について学ぶ。 社会健康医学系専攻を構成する各分野から、担当している研究・教育等領域の視点・見識、実績・経験などに基づき、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みがどのようになっているか、また、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わり貢献しているかを、講義する。											
[到達目標]											
各分野による講義の全体を通して、健康や医療に係る制度・政策の全貌を多角的に把握できるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回	4月10日	社会健康医学と健康政策：総論（今中）									
第2回	4月17日	グローバルメンタルヘルス（田近）									
第3回	5月1日	社会健康医学と知的財産（早乙女）									
第4回	5月8日	健康格差の制御（近藤）									
第5回	5月15日	新型コロナウイルス感染症の疫学（西浦）									
第6回	5月22日	成人における疾病予防：特定健診とがん検診（中山）									
第7回	5月29日	感染症研究と倫理審査（井上）									
第8回	6月5日	実地に基づく健康政策（坂本）									
第9回	6月12日	学校保健や母子保健情報の利活用による地域健康政策（川上）									
第10回	6月19日	ヘルスコミュニケーションと健康政策（岩隈）									

社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)へ続く↓↓↓											

社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)

- 第11回 6月26日 地域保健医療行政（今中/協力講師 宮園先生）
第12回 7月3日 心臓突然死対策における社会医学的アプローチ（石見）
第13回 7月10日 健康政策におけるQOL評価（山本）
第14回 7月17日 社会健康医学研究におけるデータ科学・統計学の役割（松井）
第15回 7月24日 J-SPEED - 健康危機時データ管理（久保）

*予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。

[履修要件]

社会健康医学系専攻の院生
原則、出席80%以上を前提とする

[成績評価の方法・観点]

講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント（配分60%）、レポート（配分40%）により、総合的に評価する。

[教科書]

適宜、資料を講義にて配布する

[参考書等]

（参考書）

『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版 （編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）』（南江堂、2018.）

『今中雄一編 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023）

今中 雄一『病院の教科書第2版』（医学書院）

適宜、資料を講義にて配布する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習は必要

（その他（オフィスアワー等））

健康政策学に関わる領域の教育を、専攻全体でカバーする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H077 LB90			
授業科目名 <英訳>	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	月2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。 ヘルスコミュニケーションの基本的事項をミクロ・メゾ・マクロレベルで扱います。					
[到達目標]					
学習到達目標（このコース終了時まで習得が期待できること） ・ヘルスコミュニケーションの基本的枠組み、コンセプトを理解する。 ・ヘルスコミュニケーションについて、ミクロ（個人）からマクロ（社会・国際）での視点で理解する。 ・ヘルスコミュニケーションにおける、非言語コミュニケーション（時間や空間の使い方や感覚）の役割・重要性について理解する。 ・メディア論の歴史、基本的理論を理解する。 ・研究計画書の書き方について学ぶ。 ・患者・市民参画（PPI：Patient & Public Involvement）について理解する。 ・「やさしい日本語」を理解し、実践できる。					
[授業計画と内容]					
1) 4/14 イントロダクション：個人内コミュニケーションから国際コミュニケーションまで 2) 4/21 コミュニケーション学の基本の「き」： 非言語x言語xチャネル ・コミュニケーションにおける「時間」と「空間」の影響 3) 4/28 外国人患者とのヘルスコミュニケーションについて&「やさしい日本語」演習（順天堂大学 武田裕子氏） 4) 5/12 患者-医師間コミュニケーション① と 研究計画書の書き方 5) 5/19 患者-医師間コミュニケーション② 6) 5/2 患者・市民参画（PPI：Patient & Public Involvement）とCOMLの取り組みについて（COML 代表 山口育子氏） 7) 6/2 多職種連携と多職種連携教育について（千葉大学 酒井郁子氏） 8) 6/9 メディアとリスクとヘルスコミュニケーション					
----- 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 (2)へ続く↓↓↓					

[履修要件]

選択必修

[成績評価の方法・観点]

6段階評価

授業での積極的・主体的参加 30%

クイズ 20%

レポート 50%

「一言宣言」 5% + タイトル 10% + 最終版 35%

[教科書]

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・履修者の興味関心や課題の進捗状況によって、内容が変わる場合がある。

[参考書等]

(参考書)

石川ひろの『ヘルスコミュニケーション学入門』（大修館書店）ISBN:4469268828

[授業外学修（予習・復習）等]

（その他（オフィスアワー等））

「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。
医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。
障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。
講師の都合により日程変更の可能性あり。
留学生がいる場合、授業使用言語を英語にする可能性あり。
履修学生の興味などによって、ゲーミフィケーションを取り入れた授業内容に変更する場合がある。

* 今年度は、対面での授業を予定しています。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H076 LB90			
授業科目名 <英訳>	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 井上 悠輔	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	木5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
医学研究科 井上悠輔 教授（科目責任者） 文学研究科 児玉聡 教授 医学研究科 竹之内 沙弥香 准教授 非常勤講師 大北全俊（滋賀医科大学・医療文化学講座・教授） 【基本情報】 授業日時：木曜5限（前期前半） 教室：G棟セミナー室A・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 【コースの概要】 社会健康医学における研究と実践の基礎となる倫理の考え方、研究倫理申請などについて、その骨子を学ぶ。授業は講義、演習（事例検討）などを組み合わせて行う。					
[到達目標]					
・社会健康医学における研究と実践の基礎となる倫理上の問題に適切に対応できる。 ・主な倫理理論について説明できる。 ・医療・公衆衛生・疫学における倫理的な葛藤を分析し、その解決策を提案できる。 ・倫理審査の取り組みを知り、自身の倫理申請について適切に検討できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 4/17 イントロ・医療倫理（井上） ：初回は医療倫理学の展開とその背景にあった出来事を振り返りつつ、主な原則を確認する。 第2回 4/24 疫学と公衆衛生の倫理（井上） ：疫学をめぐる倫理、公衆衛生の倫理をめぐる諸原則や課題を学ぶ。 第3回 5/8 健康と資源配分（児玉） ：限界がある資源、集団としての価値と個人の権利をめぐる倫理問題を学ぶ。 第4回 5/15 臨床倫理と臨床コンサル（井上他） ：臨床における倫理問題とその検討のプロセスを学ぶ。 第5回 5/22 終末期医療（竹之内） ：死・生命をめぐるケアのあり方と課題を学ぶ。 第6回 5/29 個人の健康と感染症の倫理（大北） ：感染症の防圧と個人の健康、利益の対立を考え、現在及び将来の規制のあり方を考える視座を得					
基礎医療倫理学 【領域5】 (2)へ続く↓↓↓					

基礎医療倫理学 【領域5】(2)

る。

第7回 6/5 倫理審査とヘルシンキ宣言（井上他）

：研究活動における倫理審査をめぐる現状と課題を学び、自身の研究計画やその審査を取り巻く枠組みを学ぶ。

第8回 6/12患者市民参画（井上他）

：患者市民が研究や医療に参画する取り組みをめぐる背景と課題を学ぶ。

[履修要件]

MPHコア科目（選択必修）

自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること（MCR含む）

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可

[成績評価の方法・観点]

以下の要素を総合的に素点評価する。

- ・議論・授業への参加（20%）：発言の積極性、論点の適切さ、他者の意見への建設的な応答
 - ・中間・最終レポート（80%）：課題の理解度、論理的思考力、独自の考察
- レポートのテーマ、期限などは、授業内で案内する。

[教科書]

授業中に指示する

講義中の配布資料

[参考書等]

（参考書）

玉井 真理子, 大谷 いづみ編 『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣 2011年）ISBN:4641124205

赤林朗編 『入門・医療倫理I（改訂版）』（勁草書房 2017年）ISBN:4326102608

井上悠輔, 一家綱邦編 『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』（日本評論社, 2018年）ISBN:4535984530

赤林朗, 児玉聡編 『入門・医療倫理III: 公衆衛生倫理』（勁草書房, 2015年）ISBN:4326102500

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜指示する

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H157 LB90			
授業科目名 <英訳>	社会疫学【領域5】 Social epidemiology		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
English follows Japanese. 社会疫学は、貧困や教育、就労環境、社会的孤立、住環境、ひいては様々な政策や地球環境といった、いわゆる「健康の社会的決定要因」について、疫学の手法を用いて明らかにしつつ、そこから生じる健康格差を制御する公衆衛生活動に資するエビデンスを構築することを目的としています。「誰一人取り残さない」健康な社会の実現に向けた学術分野です。 本コースでは、社会疫学の基礎的な理論や健康の社会的要因の各論、そして研究のための分析手法について学びます。 コース主担当の近藤による総論および主要テーマのレクチャーに加えて、各論では当該分野の第一人者を非常勤講師に招きます。毎年、講師たちとのアツい議論が交わされます。 Social epidemiology aims to use epidemiological methods to clarify the social determinants of health such as poverty, education, work environment, social isolation, housing environment, and various policies and global environment, and to contribute to public health activities to control health disparities arising from them. This is one of the academic fields that contribute to the realization of a healthy society where "no one is left behind." In this course, students will learn the basic theory of social epidemiology, each theory of social factors of health, and analytical methods for research. In addition to lectures on general topics and major themes by the course director, Dr. Kondo, leading experts in the field are invited as adjunct lecturers for each topic. Every year, students engage in heated discussions with the lecturers.					
[到達目標]					
1. 社会疫学の視座を理解する 2. 主な健康の社会的決定要因の種類、評価法、実態について理解する 3. 社会学・経済学・倫理学・行動科学／社会心理学など近傍学問の関連理論を理解する 4. 健康格差の評価法の基礎を理解する 5. 健康格差の制御法の基礎を理解する 6. 保健医療に限らない幅広い政策へと社会疫学を応用する方法について、自身の意見と具体的なアイデアを持つ					
1. To understand the perspective of social epidemiology 2. To understand the types, assessment methods, and realities of the major social determinants of health					
----- 社会疫学【領域5】(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

社会疫学【領域5】(2)

3. Understand the relevant theories of sociology, economics, ethics, behavioral science/social psychology, and other related disciplines
4. Understand the basics of evaluation methods for health disparities
5. Understand the fundamentals of methods to control health disparities
6. Have own opinions and concrete ideas on how to apply social epidemiology to a wide range of policies not limited to health care

[授業計画と内容]

下記予定は変更する場合があります。

1. 4/14 社会疫学総論
2. 4/21 社会経済状況と健康
3. 4/28 貧困と社会的排除と健康（西岡大輔）
4. 5/12 社会格差と健康
5. 5/19 格差の認知科学と政治哲学
6. 5/26 社会関係と健康（高木大資）
7. 6/2 ライフコース疫学（大阪大学／三谷はるよ）
8. 6/9 関係資本・文化資本と健康と健康
9. 6/16 健康格差の測定（長谷田真帆）
10. 6/23 建造環境と健康（高木大資）
11. 6/30 多重レベルの現象把握とデータ分析
12. 7/7 SDHとしてのジェンダー（大阪医科薬科大学/本庄かおり）
13. 7/14 健康格差の制御法：コミュニティへのアプローチ
14. 7/28 健康格差の制御法：行動科学の応用
15. 8/4 レビュー&フィードバック

The schedule below is subject to change.

1. 4/14 General introduction to social epidemiology
2. 4/21 Socioeconomic status and health
3. 4/28 Poverty, social exclusion and health
4. 5/12 Income inequality and health
5. 5/19 Cognitive science and political philosophy of inequality
6. 5/26 Social relationship and health (Daisuke Takagi)
7. 6/2 Life course epidemiology (Haruyo Mitani, Osaka University)
8. 6/9 Social capital, cultural capital and health
9. 6/16 Measuring health inequalities (Maho Haseda)
10. 6/23 Built environment (Daisuke Takagi)
11. 6/30 Multilevel thinking and multilevel analysis
12. 7/7 Gender as SDH (Kaori Honjo, Osaka Medical and Pharmaceutical University)
13. 7/14 Managing health inequality: community building
14. 7/28 Managing health inequality: behavioral science applications
15. 8/4 Review & feedback

社会疫学【領域5】(3)へ続く ↓ ↓ ↓

社会疫学【領域5】(3)

[履修要件]

事前配布資料にざっと目を通しておくこと（精読は不要）。
テキストである「社会と健康：社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ（川上・橋本・近藤編著）（東京大学出版会）に即して講義を進めるため、当該章の予習復習を期待します。

Students should skim through the handouts in advance (close reading is not required).

[成績評価の方法・観点]

講義内小テスト40%、レポート60% レポート課題はコース開催中に提示します。

レポートについて：期間中2, 3回レポート課題を課します。

*A4一枚程度とし、最大2枚まで。

*締切：各講義日の1週間後の正午

*課題名・氏名・学籍番号・提出日を明記すること

*事実関係やデータ、フレーズ等引用した場合、必ず引用データの出所を示すこと。引用した資料のリストは最後に記載すること。インターネットからの長文のコピー&ペーストは禁止（図表やデータについては、引用元を明記した上で可）。

In-class quiz: 40%, Report: 60%.

Reports: Reports will be assigned 2 or 3 times during the course.

(*A4 size, maximum of 2 pages.

Deadline: One week after each lecture day at noon.

*State the name of the assignment, your name, student ID number, and the date of submission.

When quoting facts, data, phrases, etc., be sure to indicate the source of the quoted data. A list of cited sources should be included at the end. Do not copy and paste lengthy passages from the Internet (figures, tables, and data are acceptable, provided that the source of the quotation is clearly indicated).

[教科書]

川上憲人・橋本英樹・近藤尚己（編著）『社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』（東大出版会, 2015）ISBN:978-4-13-060411-6（2回目の講義以降、各講義に関連する章を読んでおくことを推奨します。社会疫学分野にて著者割引で購入できます。希望者はcontact@socepi.med.kyoto-u.ac.jpまでメールするか、社会疫学分野オフィス（医学部先端棟2F）までお越しください。）

[参考書等]

(参考書)

近藤尚己『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』（医学書院, 2016）ISBN:978-4-260-02501-0（特に後半の講義内容に関連。）

Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour『Social Epidemiology 2nd Edition』（Oxford, 2014）ISBN:9780195377903（ヘビーですが読み応えあり。邦訳が大修館から上下巻あり（社会疫学

社会疫学【領域5】(4)へ続く↓↓↓

社会疫学【領域5】(4)

分野にて訳者割引で購入化)。

NHKスペシャル取材班『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』（講談社現代新書）ISBN: 978-4-06-288452-5（たいへん読みやすい一般むけ入門書。）

三谷はるよ『ACEサバイバー ――子ども期の逆境に苦しむ人々』（筑摩書房）ISBN:4480075518（小児逆境体験の影響やライフコース疫学について学べる入門書）

資料は日本語と英語で準備します。講義は原則英語で行い、日本語での補講ビデオを配布します。日本語で行い英語の補講資料を渡す場合もあります。

Materials will be distributed in Japanese and English. Lectures will be given in English basically, but supplementary videos in Japanese will be distributed. In some cases, lectures will be given in Japanese and supplementary materials in English will be given.

[授業外学修（予習・復習）等]

履修届け出後、関連する論文をまとめたコースパッケージへのオンラインアクセスを提示します。各回と関連する論文については事前にスキム・リーディングしておくことを推奨します（精読は不要）。

After notification of enrollment, you will be presented with online access to a course package of related papers. It is recommended that you skim-read each session and related papers in advance (close reading is not required).

（その他（オフィスアワー等））

クラス内でディスカッションをします。

We do in-class discussion.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H075 LB90			
授業科目名 <英訳>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 田近 亜蘭	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	火1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
I. コースの概要 人間行動に関連する理論の基礎について学習する。特に実践的に有用であることが示されている理論を中心に学習する。 II. 教育・学習方法 講義は対面式で実施する。 パワーポイントスライドによる講義、グループディスカッション、レポート提出					
[到達目標]					
・主な行動理論について説明することができる。 ・行動理論の応用・適用を考えることができる。 ・行動理論を用いた研究論文を理解できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 4月8日 イン트로ダクション、ヘルスビリーフモデル 第2回 4月15日 トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論 第3回 4月22日 社会的認知理論 第4回 5月13日 ストレスとコーピング 第5回 5月20日 認知行動理論、認知行動療法 第6回 5月27日 動機付け面接 第7回 6月3日 まとめ 第8回 6月10日 （予備）					
[履修要件]					
MPHコア (選択必修)					
[成績評価の方法・観点]					
課題レポート提出 ・行動理論が実践されている論文を選び、その批判的吟味をしてもらいます。 ・100点満点で評価します。単位取得のためには60点以上が必要。					
[教科書]					
講義は日本語で実施しますが、講義資料は日本語版と英語版の両方を配布します。					
----- 行動科学 【領域5】 (2)へ続く↓↓↓					

行動科学 【領域5】(2)

[参考書等]

(参考書)

必須テキスト：なし

推奨テキスト：

- ・ Glanz et al. Health Behavior and Health Education-theory, research and practice. 4th edition. Jossey-Bass, 2008 (行動科学の定番的教科書です。部分訳が出版されています「健康行動と健康教育—理論、研究、実践」(曾根智史ら、医学書院、2006年))
- ・ 松本千明. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002 (簡略に要領よく行動科学の種々の理論がまとめられています)

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の2日前までには講義資料をアップロードしますので、毎回、予習をしておいてください。また、前回の講義の復習もしてください。

(その他（オフィスアワー等）)

その他メッセージ

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H173 LJ90			
授業科目名 <英訳>	レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言 Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金5	授業形態	講義（メディア授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
人口減少・超少子超高齢社会における生産年齢人口の減少や社会保障財政のひっ迫、地域格差の拡大など社会の安定化への脅威、また、風水害や地震などの自然災害、大規模な人災、サイバーテロなど様々な脅威が、より露わとなってきた。また、COVID-19のパンデミックを契機に、社会、経済、医療、国民の生活や考え方は、従来のあり方とは異なってきた。並行して、遠隔会議の普及、科学技術やその応用方法、生活のあり方、思考などにもイノベーションが生まれてきている。予測しがたく変化が大きく不確実なこの時代に、どのようなイノベーションが生じており、今後、どう展開していくか、公衆衛生・医療、経済、情報、心理、社会、環境、都市・まち、行政・法制度、思想・倫理などの諸側面から包括的に考え、最新の潮流も踏まえ展望し、ポストコロナのより充実した社会の構築・展開に向けて、自由闊達に提案し議論を深める。 健康に関する知識が不十分、専門領域ではないと思っても、大丈夫です。専門領域や職種に関係なく聴講可能です。 【コ・オーガナイザー】近藤 尚己（医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学 教授）、長尾 美紀（医学研究科医学専攻 臨床病態検査学 教授）、西浦博（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授）、今中雄一（医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授、オーガナイザー）					
[到達目標]					
健康・生活への脅威に強いレジリエントな社会づくりと、関連するイノベーションについて、多側面から包括的に具体的に考えることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
通年、金曜5限(およそ6月～12月)、単位数：2単位 予定（タイトルなど改訂・変更ありうる） ・第1回 6月20日 今中 雄一（医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授） 「ポストコロナのレジリエントな保健医療・社会システム」 ・第2回 6月27日 浅利 美鈴（総合地球環境学研究所 教授） 「ポストコロナの地球循環型社会～京都の里山より～」 ・第3回 7月4日 西浦 博（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授） 「新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学」 ・第4回 7月11日 角山 雄一（環境安全保健機構放射線管理部門 准教授） 「放射線リスク研究の立場から考えるレジリエンス社会」 ・第5回 7月18日 谷 直起（経済研究所 特定准教授） 「超高齢化時代における日本の財政とデータを活用した政策立案に向けた取り組み」 ・第6回 10月3日 黒田 知宏（医学部附属病院 医療情報企画部 教授） 「ポストコロナの医療DX」 ・第7回 10月10日 諸富 徹（経済学研究科 教授） 「脱炭素時代のDXと経済」					
レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言 (2)へ続く↓↓↓					

レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言(2)

- ・第8回 10月17日 長尾 美紀(医学部附属病院 感染制御部 教授) 「アカデミアと地方自治体で取り組む感染症対策」
- ・第9回 10月24日 牧 紀男 (防災研究所 都市防災計画研究分野 教授) 「自然災害にレジリエントに備える」
- ・第10回 10月31日 内田 由紀子 (人と社会の未来研究院 社会心理学・文化心理学 教授) 「文化心理学から見た幸福と健康」
- ・第11回 11月7日 児玉 聡 (文学研究科倫理学研究室 教授) 「パンデミックの倫理」
- ・第12回 11月14日 依田 高典 (経済学研究科 教授) 「行動経済学と感染予防行動」
- ・第13回 11月21日 近藤 尚己 (医学研究科 社会健康医学系専攻 社会疫学 教授) 「社会疫学のエビデンスから考えるレジリエントな社会づくり」
- ・第14回 11月28日 鹿島 久嗣 (情報学研究科 知能情報学専攻 教授) 「prePrint時代における機械学習・AIの活用と意思決定」
- ・第15回 12月5日 複数教員 「まとめ：健康・生活への脅威に強い社会づくりについて」
(注) 原則メディア授業

[履修要件]

- ・80%以上の出席を必須とします。
- ・最終回の議論への参加を重視します。

[成績評価の方法・観点]

日々のコミットメント50%、レポート50%【素点(100点満点)評価】

[教科書]

各講義で資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

参考書の該当部分やPandAにアップされた資料を読み、関心のもてる事項は各自深めること。(予習・復習とも)

(その他(オフィスアワー等))

京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可

問い合わせ等は、
医療経済学教室教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>
へ連絡してください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H170 LB90			
授業科目名 <英訳>	健康危機管理の制度政策と実践【領域6】 Healthcare crisis management	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 医学研究科 教授	今中 雄一 西浦 博	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	木 5	授業形態	講義（メディア授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
新興感染症の流行、大規模災害、紛争・生物テロ、飲料水・食中毒・医薬品等による健康危機から人々の健康と命を守るための社会のしくみと実践は、益々重要となっている。関連する制度・政策、組織・連携・体制、分析・評価、計画・対策、実践などの各側面を、日常の地域のレジリエンスとともに、強化していく必要がある。 以上を含め、各視点から、健康危機管理を我が国の第一人者より学ぶ。					
[到達目標]					
健康危機管理のしくみを理解し説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
7月3日より開始し12月25日までの間で以下の候補日から全8講義行います。 候補日：7月17日、9月18日、10月2日、10月16日、11月6日、11月20日、12月4日、12月18日、12月25日 第1回 オリエンテーション/健康危機管理の制度と実践：アカデミアの視点から （医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一） 第2回 健康危機管理の制度と実践：国の行政・政策の視点から （厚生労働省 生活衛生・食品安全審議官 佐々木 昌弘） 第3回 健康危機管理の制度と実践：感染症危機管理の視点から （国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長 齋藤 智也） 第4回 健康危機管理の制度と実践：保健所の視点から （全国保健所長会 副会長／枚方保健所 保健所長 白井 千香） 第5回 健康危機管理の制度と実践：自治体行政の視点から （厚生労働省医政局研究開発政策課 課長 長谷川 学） 第6回 健康危機管理の制度と実践：災害医療の視点から （国立病院機構本部 DMAT事務次長 近藤 久禎） 第7回 健康危機管理の制度と実践：国の政策・研究の視点から （国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 富尾 淳） 第8回 健康危機管理の制度と実践：アカデミアと実践の視点から （医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博） ※上記の順番と題名は暫定的なものです。初回に予定を説明します。					
[履修要件]					
・80%以上の出席を必須とします。 ・積極的な議論への参加を重視します。					
健康危機管理の制度政策と実践【領域6】(2)へ続く↓↓↓					

健康危機管理の制度政策と実践【領域6】(2)

社会健康医学系専攻院生

他専攻院生の受講可否：医学専攻、人間健康科学系専攻の若干名可（ただし、要事前連絡。社会健康医学系専攻院生を前提とした講義となります。）

[成績評価の方法・観点]

講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント（配分50%）、レポート（配分50%）により、総合的に評価する。【素点(100点満点)評価】

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

『今中雄一編. 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023）

『病院の教科書第2版』（医学書院）

講義で紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の該当部分やPandAにアップされた資料を読み、関心のもてる事項は各自深めること。（予習・復習とも）

（その他（オフィスアワー等））

※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。

問い合わせ等は、

医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>

へご連絡ください。

面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H172 SB90			
授業科目名 <英訳>	健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ【領域6】 Disaster Healthcare Management Workshop	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
新興感染症流行、自然災害などが増えるなか、健康危機への対応は益々大きな社会的課題となっています。危機突発時の健康危機管理・災害医療においては、情報の収集把握、情報共有、計画・立案・決断・実行、関係者間の協働、資源の配備・調整などのマネジメント面が重要となってきます。 健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ（通称：災害医療ワークショップ）では、我が国のDMAT総本山のリーダー陣が実例ベースでワークショップを行い、健康危機管理、特に災害医療でのマネジメントの側面を、基本概念の理解の上、いくつかの事例の検討、グループワークなどを通じ、体験的に学びます。 医療や災害医療の知識がない、経験がないと思っていても、大丈夫です。職種も関係なく参加可能です。					
[到達目標]					
健康危機管理、特に特に災害医療でのマネジメントのしくみを理解し説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
集中講義形式 単位数：1単位 【日時】2025年8－9月頃 事前の4講義の視聴とレポート・質問作成 ワークショップ当日：朝～夕 1限～5限相当 【場所】京都大学 医学研究科 G棟 セミナー室A 【外部講師】近藤久禎先生、若井聡智先生 ほか ----- <アクティブラーニング用e-ラーニング講義> 講義1 DMATの意義について 講義2 CSCATTTについて 講義3 広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS) 講義4 病院の災害対応と受援 <講義> 講義5 e-ラーニング講義の内容に関する質疑応答・ディスカッション ※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部近藤 久禎/若井 聡智 講義6 「近年の災害対応とDMAT（自然災害）」 ※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部近藤 久禎/若井 聡智 机上演習1					
健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ【領域6】(2)へ続く↓↓↓					

※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎／若井 聡智
※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美

机上演習 2

※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎／若井 聡智
※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美

机上演習 3 「COVID-19事例紹介と机上演習」

※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎／若井 聡智
※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美

[履修要件]

健康危機管理、災害医療のマネジメント側面に、関心を持つ者

[成績評価の方法・観点]

ワークショップへのコミットメント
【素点(100点満点)評価】

[教科書]

<資料>

講義資料 1 DMATの意義について
講義資料 2 CSCATTTについて
講義資料 3 広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS)
講義資料 4 病院の災害対応と受援
講義資料や机上演習の資料は、ワークショップ中に適宜追加。

[参考書等]

(参考書)
特に指定無し

[授業外学修（予習・復習）等]

履修登録者は、ワークショップの事前に、4 講義を視聴し、A4 1 枚以内で、学んだことのキーポイントと質問を記すレポートをPandAにて提出すること。

(その他（オフィスアワー等）)

京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可

問い合わせ等は、
医療経済学教室教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>
へご連絡ください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H169 LB90			
授業科目名 <英訳>	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション【領域6】 Risk Communication for Public Health Emergencies	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 蝦名 玲子		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
本授業は、公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションの理解を深め、適切な実践ができる人材を育成することを目的としたもので、前期（入門編）と後期（応用編）から成る。 まず前期に緊急事態下のリスクコミュニケーションの基本となる概念や理論を学び、危機下でコミュニケーションを難しくするリスク認知と感情の問題や対応方法、保健医療専門職個人や行政等のリスク管理組織が信頼を構築するための戦略と体制、戦略的リスクコミュニケーション計画の策定方法について、演習を交え理解を深める。 さらに後期では情報処理能力も低下する危機下でのリスク説明と不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法、情報公開場面での考慮点となるマスメディアとの協力やスティグマ対策、緊急事態によるリスクに脆弱な人びととの対話、虚偽情報の処理の仕方等、より難易度の高いコミュニケーションについて学ぶ。 講義・実習は科目責任者と非常勤講師が共同・分担して実施する。 教育・学習方法：講義形式と演習					
[到達目標]					
・公衆衛生の緊急事態に、保健医療専門職やリスク管理者に求められる多様なリスクコミュニケーションについて理解できるようになる ・戦略的リスクコミュニケーション計画の策定、ニーズのアセスメント、実践、評価を含む、リスクコミュニケーション能力が向上する ・リスクの影響を受けた人々のリスク認知や感情、理解度（ヘルスリテラシー）等を理解した上で、相手のニーズに合った双方向のコミュニケーション・スキルが身につく ・危機管理の中での効果的にリスクコミュニケーションをとる方法を理解し、遂行能力が高まる ・スティグマや虚偽情報への対応方法がわかる ・次の緊急事態に備えるために、リスクコミュニケーションの視点から何をすべきかがわかる					
[授業計画と内容]					
前後期、各1日（4コマ×2日）					
前期（9月17日（水）10:00～17:30予定）					
1. 緊急事態下のリスクコミュニケーション 2. リスク認知と感情 3. 戦略的リスクコミュニケーション計画 4. 信頼を構築するための戦略と危機対応体制					
後期（2月10日（火）10:00～17:30予定）					
5. リスク説明、不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法 6. マスメディアとの協力とスティグマへの対応					
----- 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション【領域6】(2)へ続く↓↓↓					

7. リスクに脆弱な人々とのコミュニケーション
8. 虚偽情報の処理

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中行う演習70%、コース終了時の小論文30%

[教科書]

蝦名玲子著『クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション(CERC);危機下において人々の命と健康を守るための原則と戦略』（大修館書店、2020年）ISBN:978-4469269000（各自購入 2420円）

蝦名玲子著『公衆衛生の緊急事態にまちの医療者が知っておきたいリスクコミュニケーション』（医学書院、2022年）ISBN:978-4260050869（各自購入 2860円）
教科書を用いるが、演習等は配布資料もあり。

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

日々のニュースや保健医療福祉現場で働く同僚等との会話から、本授業から学んだことがいかに現状の改善に活かせるかを普段から考えること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H161 LB90			
授業科目名 <英訳>	感染症数理モデル入門【領域6】 Introduction to infectious disease modelling		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	8/1-8/10	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	英語
[授業の概要・目的]					
This module welcomes students to dive into the introductory science of infectious disease modelling. We cover the fundamental idea of renewal process. Infectious disease data are very special in two critical points, (i) infection event is seldom directly observable and (ii) the risk of infection involves dependence structure. We study how these problems are handled using non-linear models and integral equations.					
[到達目標]					
a. Understand how the transmission potential is measured in epidemiology; b. Explain threshold phenomena in controlling infectious diseases; c. Describe technical issues associated with delay structure; d. Understand how vaccine efficacy at an individual level can be measured; e. Estimate and implement epidemic modelling in students' own laptop computer.					
[授業計画と内容]					
The venue is likely to be external to the campus (e.g. Campus Plaza Kyoto in the last year), spanning from 1 to 10 August. During this period, participants may have a difficulty to attend other lectures in a timely manner. Each session takes 90 minutes in total. The module itself will be a part of the 10-day short course of infectious disease modelling, and participants are encouraged to take other lectures too. 1. Introduction to epidemic modelling 2. Measuring transmissibility 3. Herd immunity and SIR model 4. Capturing heterogeneity 5. Vaccine and vaccination 6. Stability analysis 7. Real time modelling 8. Case fatality risk, followed by exam					
[履修要件]					
Attend "infectious disease epidemiology" (MPH core) in advance 必ず「感染症疫学」に先にご出席ください					
----- 感染症数理モデル入門【領域6】(2)へ続く↓↓↓					

感染症数理モデル入門【領域6】(2)

[成績評価の方法・観点]

Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination.
Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).

[教科書]

西浦博（編）『感染症疫学のためのデータ分析入門』（金芳堂、2021）ISBN:978-4-7653-1882-2（感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での「感染症疫学」の講義内容に準拠してまとめています。）

西浦博（編）『感染症疫学のためのデータ分析入門．数理モデル編』（金芳堂、2024）（感染症数理モデルの入門書を2024年に出版することになりました。本科目の講義内容に準拠してまとめています。）

[参考書等]

（参考書）

西浦博（編）『感染症流行を読み解く数理』（日本評論社、2022）ISBN:978-4-535-78759-9（感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。）

[授業外学修（予習・復習）等]

No specific preparation would be required.
There will be math refresher sessions on Day 2 and Day 3 of the entire short course. Students who do not possess substantial mathematical expertise are encouraged to attend those lessons.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H126 LB90							
授業科目名 <英訳>	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	今中 雄一		
					医学研究科	特定准教授	佐々木 典子		
					医学研究科	准教授	國澤 進		
					医学研究科	特定助教	後藤 悦		
					医学研究科	特定講師	高田 大輔		
					医学研究科	特定助教	糸島 尚		
配当学年		専門職		単位数		1	開講年度・開講期		2025・前期前半
曜時限		水4		授業形態		講義（対面授業科目）		使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]									
・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、保健・医療の経済性評価のための主な研究手法を学習します。 ・保健・医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 ・保健・医療に関する幅広いテーマの経済評価の検討を行います。									
[到達目標]									
・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 ・医療の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。 ・治療技術・薬剤・医療材料・検査・健康政策プログラムなどに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 ・上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。									
[授業計画と内容]									
第1回	4月9日	保健・医療における経済性の評価（1）							
第2回	4月16日	保健・医療における経済性の評価（2）							
第3回	4月23日	医療経済評価研究の評価法							
第4回	5月7日	経済評価のモデリング							
第5回	5月14日	費用効果/効用分析の方法論 1							
第6回	5月21日	費用効果/効用分析の方法論 2							
第7回	5月28日	保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議 1							
第8回	6月4日	保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議 2							
＊ 初回到予定を説明します。									
[履修要件]									
非MCR限定									
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否									
保健・医療の経済評価 【領域4】 (2)へ続く↓↓↓									

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)

原則、出席80%以上を前提とする

[成績評価の方法・観点]

講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント（配分40%）、レポート（配分60%）により、総合的に評価する。【素点(100点満点)評価】

[教科書]

適宜、資料を講義にて配布する

[参考書等]

（参考書）

『今中雄一編. 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023）

『病院の教科書第2版』（医学書院）

・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.

・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.

・ 医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013）

・ Handbook of Health Services Research（Springer Science+Business Media）

・ 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」（編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）南江堂. 2018.

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の該当部分やPandAにアップされた資料を読み、関心のもてる事項は各自深めること。（予習・復習とも）

（その他（オフィスアワー等））

経済学の学習経験は問いません。

当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。（医療経済学分野：<http://med-econ.umin.ac.jp>）

注）医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能

保健・医療の経済評価 【領域4】(3)

評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半)(1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。

問い合わせ等は、
医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>
へご連絡ください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H109 LB90			
授業科目名 <英訳>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期前半
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実際についても学びます。 【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、松林恵介（吹田市・行政医師）、西嶋康浩（厚生労働省健康局 がん・疾病対策課・課長）、間宮弘晃（国際医療福祉大学・准教授）					
[到達目標]					
・ 医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。 ・ 医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。					
[授業計画と内容]					
第1回 10月1日	医薬政策、行政の潮流		(川上)		
第2回 10月8日	米国連邦政府における医薬行政		(川上)		
第3回 10月22日	医療機器の行政、研究開発と課題		(川上)		
第4回 10月29日	日本における医薬行政と最近の動向		(間宮)		
第5回 11月5日	食品衛生行政		(西嶋)		
第6回 11月12日	医療保険制度と医薬品の評価		(松林)		
[履修要件]					
本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の場への参加（50点）、レポート（50点）					
----- 医薬政策・行政 【領域4】 (2)へ続く↓↓↓					

医薬政策・行政 【領域4】(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

安生紗枝子ら 『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版, 2006.）ISBN:978-4320061576

川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗（監修） 『ストロムの薬剤疫学』（南山堂, 2019.）ISBN: 978-4525183912

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。

(その他（オフィスアワー等）)

川上浩司 G 棟3 階・内線：9469 (代表)

面談希望は必ずメールでご連絡下さい。

kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 2H154 LJ87										
授業科目名 <英訳>		医学基礎 I 「生理学 I」 Basic Medicine I (Physiology I)			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 緑川 光春 医学研究科 教授 渡邊 大 医学研究科 特定助教 本多 由起子					
配当学年		専門職		単位数		2		開講年度・開講期		2025・前期前半		
曜時限		月3,4		授業形態		講義（対面授業科目）			使用言語		日本語	
[授業の概要・目的]												
医療に関わる者に必要とされる人体機能についての専門的基礎知識を習得する。本講義では、神経系、血液、循環、呼吸などの機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業の内容について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目的とする。												
[到達目標]												
医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断がとれるようになるための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。												
[授業計画と内容]												
2025.04.14 第1,2回 末梢神経・中枢神経（緑川） 2025.04.21 第3,4回 神経興奮の発生とその伝導・伝達（渡邊大） 2025.04.28 第5,6回 感覚（緑川） 2025.05.12 第7,8回 筋と骨（緑川） 2025.05.19 第9,10回 血液（緑川） 2025.05.26 第11,12回 心臓と循環（緑川） 2024.06.02 第13,14回 呼吸とガスの運搬（緑川） (未定) 第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック（緑川）												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
講義への積極的参加を通じた理解度確認（質疑応答や発表などを評価する）30%とレポート70%												
[教科書]												
岡田隆夫 / 鈴木敦子 / 渡邊マキノ 編集 『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-05318-1 スライドと配布資料も使用する。												
[参考書等]												
（参考書） 岡田隆夫 / 鈴木敦子 / 渡邊マキノ 編集 『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学』												
----- 医学基礎 I 「生理学 I」(2)へ続く↓↓↓ -----												

医学基礎 I 「生理学 I」(2)

(医学書院) ISBN:978-4-260-05318-1

[授業外学修（予習・復習）等]

配布資料に示されているポイントの各項目について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。

(その他（オフィスアワー等）)

本講義では、予習・復習が必要です。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 2H163 LJ87				
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「神経生理学」 Basic Medicine I (Neurophysiology)			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 緑川 光春 医学研究科 特定助教 本多 由起子	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期後半	
曜時限	月1,2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語	
[授業の概要・目的]						
医療に関わる者に必要となる人体機能のうち神経系の構造と機能について、「生理学I・II」で学んだ内容からさらに発展的な項目について、学習する。毎回の授業の内容について各自で検索・考察することによって神経系について理解を深め、医療専門職として有用となる神経機能の発展的な知識を身につけることを目的とする。						
[到達目標]						
医療の現場で問題に直面した際に、医療専門職として正しい判断がとれるようになるために有用となるヒト神経系についての発展的な知識を習得する。						
[授業計画と内容]						
2025.12.01 第1,2回 静止膜電位と活動電位 （緑川） 2025.12.08 第3,4回 シナプス伝達 （緑川） 2025.12.15 第5,6回 視覚 （緑川） 2025.12.22 第7,8回 聴覚・平衡感覚 （緑川） 2026.01.05 第9,10回 体性感覚、化学感覚 （緑川） 2026.01.19 第11,12回 記憶・学習・シナプス可塑性 （緑川） 2026.01.26 第13,14回 脳の配線・臨界期・研究の手法 （緑川） （未定） 第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック （緑川）						
[履修要件]						
本科目は、2021年度以降カリキュラム適用学生対象の科目です。 （※2017～2020年度カリキュラム適用学生は、「神経生理学 I」を履修登録してください。）						
[成績評価の方法・観点]						
講義への積極的参加を通じた理解度確認（質疑応答や発表などを評価する）30%とレポート70%						
[教科書]						
スライドと配布資料を使用する。						
[参考書等]						
（参考書） 『神経科学～脳の探求（改訂版）』（西村書店）ISBN:978-4-86706-018-6 『スタンフォード神経生物学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）ISBN:978-4-89592-888-5 『《標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野》生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-05318-1						
				医学基礎 I 「神経生理学」(2)へ続く↓↓↓		

医学基礎 I 「神経生理学」 (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布資料の内容について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

「生理学I・II」では簡単な紹介に留まった中枢神経系について詳しく扱う。脳の神経回路の仕組みに興味のある学生にぜひ受講してほしい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 2H153 LJ87			
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「解剖学」 Basic Medicine I (Anatomy)		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 山田 重人 医学研究科 特定助教 本多 由起子	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	水3,4	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一個体として機能している。人体の構造と機能に関する総合的理解を目指し、特に、その構造異常や機能異常によって起こる「疾患」を念頭において概説する。学生諸君の知的好奇心を刺激する一方で、臨床に有益な関連事項を織り交ぜて解説したい。					
[到達目標]					
・ 人体の構造及び機能の基本を理解する。 ・ 異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。					
[授業計画と内容]					
第1・2回（4/9） Chapter1 Introduction to the Body; Chapter2 Chemistry of Life; Chapter3 Cells; Chapter4 Tissues; Chapter5 Organ Systems （山田） 第3・4回（4/16） Chapter6 Skin and Membranes; Chapter7 Skeletal System （谷間） 第5・6回（4/23） Chapter8 Muscular System; Chapter9 Nervous System （谷間） 第7・8回（4/30） Chapter10 Senses; Chapter11 Endocrine System; Chapter12 Blood （谷間） 第9・10回（5/7） Chapter13 Cardiovascular System; Chapter14 Lymphatic System and Immunity; Chapter15 Respiratory System （山田） 第11・12回（5/14） Chapter16 Digestive System; Chapter18 Urinary System; Chapter21 Reproductive System （山田） 第13・14回（5/21） Chapter22 Growth, Development, and Aging／Human Development （山田） 第15回（日付未定） 社会健康医学系専攻の学生はレポート提出（近藤）					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
社会健康医学系専攻においては、課題レポートにより評価する。 なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく近藤・上田（sphkyoumu@gmail.com）へ確認すること。					
----- 医学基礎 I 「解剖学」 (2)へ続く↓↓↓					

医学基礎 I 「解剖学」(2)

[教科書]

K.T.Patton, G.A.Thibodeau 『Structure & Function of the Body,16th ed., Paperback』 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323871730 (2024年10月発売の第17版を使用する。)

※購入については、高価なので初回の授業を確認してからにすること。

[参考書等]

(参考書)

秋田恵一(翻訳)『グレイ解剖学原著第5版』(エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860346607 (必要に応じて参照のこと。重いので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。)

藤田恒夫, 藤田信也『入門人体解剖学 改訂第6版』(南江堂) ISBN:978-4524230723 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。)

山田重人(翻訳)『ソボッタ解剖学アトラス』(丸善出版) ISBN:978-4621304594 (アトラス。実習と併用が可能。これは第1巻の情報で、全3巻である。)

山田重人(翻訳)『ラングマン人体発生学 第12版』(メディカル・サイエンス・インターナショナル) ISBN:978-4815730963 (最終回「Human Development」の参考書である。)

K.T.Patton他『The Human Body in Health & Disease - Softcover 8th Edition』(Elsevier, 2023) ISBN: 978-0323734165 (スライド資料に使われている。)

(関連URL)

<https://evolve.elsevier.com/cs/>(教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・講義前には、教科書の該当範囲を通読してくることが望ましい。
- ・講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。

(その他(オフィスアワー等))

初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。

なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく近藤・上田(sphkyoumu@gmail.com)へ確認すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H164 LJ90			
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 附属病院 附属病院	特定講師 川崎 秀徳 特定准教授 小川 昌宣 特定助教 岡 知美 特定助教 小倉 加奈子
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3・その他開講日注意	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
【基本情報】 授業日時：水曜日 3限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある ＊4月23日は臨床第一講堂で行う レベル：基礎 担当教員：小川昌宣（科目責任者）、川崎秀徳、小杉真司、岡知美、小倉加奈子、稲葉慧					
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。遺伝情報を治療に役立てていく精密医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。					
[到達目標]					
ヒト遺伝学の基本的事項について十分に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。					
[授業計画と内容]					
【第1回】 4月9日3限<小川>「細胞遺伝学(1)」 染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論を理解する 【第2回】 4月9日4限<小川>「細胞遺伝学(2)」 染色体数的異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・染色体構造異常の保因者の概念と次世代への影響を理解する 【第3回】 4月16日3限<岡>「メンデル遺伝学(1)」 メンデル遺伝総論：遺伝形式、ヒトゲノム構造、常染色体と性染色体を理解する 【第4回】 4月16日4限<岡>「メンデル遺伝学(2)」 各遺伝形式の特徴と具体的疾患を理解する 【第5回】 4月23日3限（臨床第一講堂）<小川>「集団遺伝学」 集団遺伝学、Hardy-Weinberg平衡、アリル頻度、遺伝的浮動を理解する 【第6回】 4月23日4限（臨床第一講堂）<稲葉>「家系図とリスク算定」 標準的家系図の記載法、再発率の推定、ベイズの定理を理解する 【第7回】 4月30日3限<川崎>「分子遺伝学の基礎」 遺伝子発現調節と分子病理学を理解する 【第8回】 4月30日4限<川崎>「遺伝学的検査(1)」 PCR法、シーケンス法、サザンブロット法、CGHマイクロアレイ法を理解する 【第9回】 5月7日3限<小倉>「腫瘍遺伝学の基礎」 がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性腫瘍症候群を理解する					
----- 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (2)へ続く↓↓↓					

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (2)

- 【第10回】 5月14日3限<小倉>「体細胞遺伝学」
体細胞バリエーションと生殖細胞系列バリエーションの違いを理解する
- 【第11回】 5月21日3限<川崎>「遺伝学的検査(2)」
バリエーションの種類と評価方法を理解する
- 【第12回】 5月28日3限<川崎>「非メンデル遺伝(1)」
ミトコンドリア遺伝を学ぶ；母系遺伝、ヘテロプラスミー、ホモプラスミー、ミトコンドリア病を理解する
- 【第13回】 6月4日3限<川崎>「非メンデル遺伝(2)」
エピジェネティクスを学ぶ；刷り込み遺伝子、DNAメチル化、ヒストン修飾、クロマチンリモデリング、片親性ダイソミーを理解する
- 【第14回】 6月11日3限<小杉>「薬理遺伝学」
遺伝薬理学とゲノム薬理学の基本を理解する
- 【第15回】 6月25日3限<岡>「ゲノム情報を活かした医療」
個別化医療、がんゲノム医療を理解する
- 【第16回】 7月2日3限<岡>「本試験」筆記試験
- 【第17回】 7月23日3限<川崎>「再試験」筆記試験

[履修要件]

遺伝カウンセラーコース1年次必修科目です。非医療系出身者は「医学基礎 I 『基礎人類遺伝学』」(H164000)を、医療系出身者は「基礎人類遺伝学」(H040000)をそれぞれ履修して下さい。選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」ととも履修することをお勧めします人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡

[成績評価の方法・観点]

記述式試験において、100点満点中、60点以上となること。満たない場合は再試験を課す。

[教科書]

トンプソン&トンプソン『遺伝医学(第2版)』（メディカルサイエンスインターナショナル）
ISBN:978-4-89592-875-5（2017年4月発行）

福嶋義光（監修）『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』（南江堂 2016）ISBN:978-4-524-26667-8

福嶋義光（監修）『新 遺伝医学やさしい系統講義19講』（メディカルサイエンスインターナショナル 2019）ISBN:978-4-815-70166-6

臨床遺伝専門医制度委員会『臨床遺伝専門医テキスト1 臨床遺伝学総論』（診断と治療社 2021）
ISBN:978-4-787-82367-0

[参考書等]

(参考書)

新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』（南江堂 2020）ISBN:978-4-524-24931-2

戸田達史、井上聡、松本直通『ヒトの分子遺伝学 第5版』（MEDSI 2021）ISBN:978-4815730321

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (3)

(関連URL)

[http://www.geneclinics.org/\(GeneReviews\)](http://www.geneclinics.org/(GeneReviews))

[授業外学修（予習・復習）等]

指定の教科書・参考書を参照する。

(その他（オフィスアワー等）)

講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H007 LB87					
授業科目名 <英訳>	医学基礎 II Basic Medicine II			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 医学研究科 附属病院 附属病院 京都岡本記念病院 附属病院 医学研究科	教授 教授 准教授 助教 教育センター 助教 特定助教	近藤 尚己 尾野 亘 加藤 貴雄 塩見 紘樹 河田 光博 山地 杏平 本多 由起子
配当学年	専門職	単位数		2	開講年度・開講期		2025・後期
曜時限	木2	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語	日本語及び英語	
[授業の概要・目的]							
尾野 亘（京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授） 加藤 貴雄（京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 臨床研究推進部 准教授） 山地 杏平（京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教） 塩見 紘樹（京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教） 河田 光博（京都岡本記念病院顧問・京都府立医科大学名誉教授）神経内分泌学、脳科学、解剖学 コースの概要 生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、循環系の器官・器官系の生理機能と調節機構に加えて、医学基礎I（前期）で扱わなかった運動器系（骨と筋）、神経系の基本的な構造と機能、およびその病態形成のメカニズムなどについて講義を行う。 学習到達目標（このコース終了時まで習得が期待できること） ・循環系について理解する ・運動器系の構成と正常機能および頻度の高い疾患の病態について理解する ・神経系と感覚器系の正常機能と形態および頻度の高い疾患の病態について理解する 教育・学習方法 講義形式（一部、解剖センターでの脳、骨格標本の見学を予定）							
[到達目標]							
医療系学部等での該当する教育を受けていない学生向けに開講している科目である。社会健康医学系専攻における多様な研究活動を行っていくための基盤的な学びを得る。							
[授業計画と内容]							
第1回 10月 2日 循環器総論 ポンプとしての構造と機能を知る（塩見） 第2回 10月 9日 循環器各論 1 構造的異常を知る：弁膜症・先天性心疾患と血管疾患の理解のために（加藤） 第3回 10月 16日 循環器各論 2 構造的異常を知る：虚血性心疾患・救急医療の理解のために（山地） 第4回 10月 23日 循環器各論 3 機能的異常を知る：高血圧・不整脈の理解のために（尾野） 第5回 10月 30日 運動器系：骨格系 1（骨・軟骨組織の構造と軸骨格）について（河田） 第6回 11月 6日 運動器系：骨格系 2（上肢・下肢の骨、関節）について（河田） 第7回 11月 13日 運動器系：筋系 1（筋組織の構造と運動）について（河田） 第8回 11月 20日 運動器系：筋系 2（上肢・下肢・体幹）について（河田） 第9回 11月 27日 神経系 1：神経系の研究の歴史、神経細胞の構造と機能について（河田） 第10回 12月 4日 神経系 2：脳と脊髄標本の見学（日程は仮で、調整次第通知する）（河田） 第11回 12月 11日 神経系 3：中枢神経系（大脳皮質、大脳の各葉）の構造と機能について（河田）							
----- 医学基礎 II(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----							

医学基礎 II(2)

第12回 12月 18日 神経系4：中枢神経系（基底核、辺縁系、間脳）の構造と機能について（河田）
第13回 12月 25日 神経系5：中枢神経系（脳幹、脊髄）の構造と機能について（河田）
第14回 1月 8日 神経系6：末梢神経系、自律神経系、血管系について（河田）
第15回 1月 15日 神経系7：代表的な脳・脊髄疾患の病態についてと総まとめ（河田）
※1回～4回：塩見・加藤・山地・尾野、5回～15回：河田

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義への積極的参加を通じた理解度確認（質疑応答や発表などを評価する）30%とレポート70%

[教科書]

・カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）（コメディカルサポート研究会）メディカル・サイエンス・インターナショナル（ELSEVIER）2017(ISBN: 978-4-89592-906-6)
神経科学 脳の探求 改訂版マーク・F・ベアー(著),バリー・W・コノーズ(著),マイケル・A・パディーソ(著),藤井 聡(監修, 翻訳) 西村書店2021(ISBN:978-4-86706-018-6)

[参考書等]

（参考書）

（参考書）

- ・カandel神経科学 第2版 宮下保司(監修),Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum(編集) メディカルサイエンスインターナショナル 2022(ISBN: 978-4-8157-3055-0)
- ・人体の正常構造と機能（改訂第3版）全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017(ISBN: 978-4-7849-3270-2)
- ・プロメテウス解剖学コアアトラス第2版、医学書院、2014(ISBN: 978-4-260-01932-3)
- ・病気が見えるvol.2 循環器 医療情報科学研究所 2017(ISBN: 4-89632-084-0 (set))

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜予習復習を求める。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H008 LB87						
授業科目名 <英訳>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	近藤	尚己
					附属病院	非常勤講師	千葉	勉
						助教	錦織	達人
						非常勤講師	岩破	將博
						附属病院	特定講師	星野
医学研究科	特定講師	高田	大輔					
医学研究科	特定助教	本多	由起子					
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期			
曜時限	水4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語			
[授業の概要・目的]								
担当教員 千葉 勉（関西電力病院 特任院長、京都大学名誉教授） 星野 伸晃（京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT) 臨床研究推進部 / 消化管外科 特定講師） 高田 大輔（京都大学大学院医学研究科 医療経済学教室 特定講師） 岩破 將博（京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学 学内講師） 錦織 達人（京都市立病院総合外科医長、京都大学消化管外科客員研究員） コースの概要 医学は今日まで多くの疾病の原因を解明し、その予防法と治療法を発見し人間社会に貢献してきた。しかし、現代社会は人口問題、環境問題、高齢者問題などが相まって、人間の疾病と関連する多くの課題に直面している。本講義では、保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者（医師、看護師、その他のコメディカルスタッフ）が連携していく上で不可欠な医学に関する基礎知識と今日的課題について講義する。 教育・学習方法 ・講義								
[到達目標]								
・現代医学・医療の基本的な内容や方向性を理解できる。 ・社会における臨床医学の役割や抱える問題点とその背景を、様々な立場から理解できる。								
[授業計画と内容]								
第1回 10月1日 がん診療における患者・医療と社会（岩破） 第2回 10月8日 がんゲノム医療における臨床的課題（岩破） 第3回 10月15日 医療と安全管理（錦織） 第4回 10月22日 臨床栄養とPRO（錦織） 第5回 10月29日 臨床研究と法・指針（星野） 第6回 11月5日 保険外併用療養費制度（星野） 第7回 11月12日 「腎臓の解剖・生理学と臨床医学の橋渡し」（高田） 第8回 11月19日 「高血圧・腎疾患を中心とした臨床医学と臨床研究の橋渡し」（高田） 第9回 11月26日 がんの基礎と臨床(千葉) 第10回 12月3日 遺伝子と遺伝病(千葉) 第11回 12月10日 免疫と疾患(千葉)								
-----臨床医学概論(2)へ続く↓↓↓-----								

臨床医学概論(2)

第12回 12月17日 感染症 (千葉)

第13回 12月24日 栄養と代謝性疾患 (千葉)

第14回 1月7日 消化器疾患 (千葉)

第15回 1月14日 循環器疾患と腎疾患 (千葉)

*1回・2回：岩破講師、3回・4回：錦織講師、5回・6回：星野講師、7回・8回：高田講師
9回～15回：千葉講師

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義への積極的参加を通じた理解度確認（質疑応答や発表などを評価する）50%とレポート50%

[教科書]

推薦テキスト（購入は必須ではない）

・河田光博、武田英二編. 臨床医学入門人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版 (栄養科学シリーズNEXT). 講談社サイエンティフィク, 2009. (ISBN: 978-4-06-155362-0)
))

[参考書等]

(参考書)

(参考書等)

- ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education (ISBN：9780071802161)
- ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier (ISBN: 9780323322850)
- ・ガイトン 生理学、エルセヴィアジャパン (ISBN：978-4-86034-774-1)
- ・ハーパー 生化学、丸善 (ISBN: 978-4-621-31023-6)
- ・日本麻酔科学会 麻酔を受けられる方へ：
https://anesth.or.jp/users/common/receive_anesthesia?page=1
- ・厚生労働省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針：<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html>
- ・厚生労働省 臨床研究法について：<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>
- ・厚生労働省 先進医療の概要について：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryokuhoken/sensiniryo/index.html
- ・厚生労働省 患者申出療養制度：<https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html>

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜予習復習を求める。

臨床医学概論(3)へ続く↓↓↓

臨床医学概論(3)

(その他（オフィスアワー等）)

必修である非医療系学部出身者はもちろん、医師はじめ医療系学部出身者の受講も歓迎します。

人間健康科学系専攻学生：可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H137 LJ90			
授業科目名 <英訳>	生存時間解析 Survival Analysis		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 大阪大学大学院医学系研究科 服部 聡	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	金3-4	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間（生存時間）の統計的分析をする方法であり、抗悪性腫瘍薬の臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計解析用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。					
【11月7日、14日、28日、12月5日（金）の集中講義】					
[到達目標]					
・打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する。 ・Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する。 ・ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する。 ・生存時間解析の方法をSASにより適用できる。					
[授業計画と内容]					
第1回	11月 7日 3限	生存時間データの事例と特徴			
第2回	11月 7日 4限	パラメトリック推定			
第3回	11月14日 3限	ノンパラメトリック推定			
第4回	11月14日 4限	Logrank検定			
第5回	11月28日 3限	Cox比例ハザードモデル			
第6回	11月28日 4限	生存時間解析における残差解析			
第7回	12月 5日 3限	ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計			
[履修要件]					
・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること。 ・微積分の基本的な計算に慣れていること。					
[成績評価の方法・観点]					
レポート試験により評価する（理解度に対する課題の素点（100点満点））。					
[教科書]					
毎回講義資料を配布します。					
-----生存時間解析(2)へ続く↓↓↓-----					

生存時間解析(2)

[参考書等]

(参考書)

大橋靖雄、浜田知久馬 『生存時間解析－SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN:978-4130602006

Collett D（宮岡悦良 監訳） 『医薬統計のための生存時間データ解析 原著第2版』（共立出版）ISBN:978-4320110359

Klein J, Moeschberger ML（打波守訳） 『生存時間解析』（丸善出版）ISBN:978-4621061886

Therneau TM, Grambsch PM 『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』（Springer）ISBN:978-1-4419-3161-0

大橋靖雄, 浜田知久馬, 魚住龍史 『生存時間解析 応用編-SASによる生物統計-』（東京大学出版会）ISBN:978-4130623179

[授業外学修（予習・復習）等]

前回の復習を行うこと。

(その他（オフィスアワー等）)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H138 LJ90			
授業科目名 <英訳>	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 岩手医科大学 高橋 史朗	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	金3-4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、事例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとその解析方法を説明する。 【10月3日、10日、17日、24日（金）の集中講義】					
[到達目標]					
・ 回帰モデルの役割を理解する。 ・ 様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する。 ・ 統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 10月 3日 3限 経時測定データの事例と特徴 第2回 10月 3日 4限 相関する連続データに対する一般線形モデル（1） 平均構造と共分散構造のモデリング 第3回 10月10日 3限 相関する連続データに対する一般線形モデル（2） 変量効果モデル 第4回 10月10日 4限 欠測値がある経時測定データの解析 第5回 10月17日 3限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル（1） 周辺モデルとGEE 第6回 10月17日 4限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル（2） 変量効果モデル 第7回 10月24日 3限 経時測定データ解析の復習とSASによる演習					
[履修要件]					
・ 前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること。 ・ 線形代数の基本的な知識を有すること。 ・ SASとRのプログラムが提示されるのでSASとRをインストールしておくこと。					
-----統計モデルとその応用(2)へ続く↓↓↓					

統計モデルとその応用(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験により評価します（理解度に対する課題の素点（100点満点））。

[教科書]

毎回講義資料を配布します。

[参考書等]

（参考書）

Dobson AJ. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』（共立出版）ISBN:978-4320018679

McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』（Wiley）ISBN:978-0-470-07371-1

船渡川伊久子, 船渡川隆 『経時データ解析』（朝倉書店）ISBN:978-4254128550

[授業外学修（予習・復習）等]

前回の復習をすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H134 LJ90			
授業科目名 <英訳>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之 医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 特任准教授 佐藤 恵子	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	金3-5限※開講日注意	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
19世紀の英国の首相ディズレーリは「嘘には、“嘘”、“大きな嘘”、“統計”がある」としていますが、統計はさまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘よばわりされないためには、統計に関わる業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもちろんのこと、プロフェッショナルリズムを有していなくてはなりません。 と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近は研究不正のおかげで、規範を守れたの研究倫理セミナーを受けろなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかいない」を基本コンセプトに、統計家はどうあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。 人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけではなく心が必要であること、健康を願って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が荷担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうふるまうべきか、自分はどうかありたいのかについて、討議やグループワークを通じて考えます。 【7月4日、11日、18日（金）の集中講義】 第3・4回（7月11日）は佐藤嗣道先生（東京理科大学）、第5・6・7回（7月18日）は安藤友紀先生（PMDA）による講義とディスカッションがあります。					
[到達目標]					
・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する。 ・薬の評価において過去に統計家がしてきたことを理解する。 ・臨床研究における統計家の役割を説明できる。 ・統計家としての行動基準を考えて身の内に持つ。					
[授業計画と内容]					
集中講義 7月4日（金、3,4限）、11日（金、3,4限）、18日（金、3,4,5限）					
第1回	7月 4日 3限	正当な臨床試験を計画する1			
第2回	7月 4日 4限	正当な臨床試験を計画する2			
第3回	7月11日 3限	サリドマイド裁判と統計家の関わり1			
第4回	7月11日 4限	サリドマイド裁判と統計家の関わり2			
第5回	7月18日 3限	ICH統計ガイドラインのこころ			
第6回	7月18日 4限	統計家のプロフェッショナルリズム涵養の			
第7回	7月18日 5限	グループワーク			
-----統計家の行動基準(2)へ続く↓↓↓					

統計家の行動基準(2)

[履修要件]

統計家でない学生さんも歓迎です。

[成績評価の方法・観点]

課題レポートで評価します（理解度に対する課題の素点（100点満点））。

[教科書]

講義資料などをPandAにアップします。

[参考書等]

（参考書）

Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』（Springer, 2015）ISBN:978-3319307732

國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい作法』（中外医薬社, 2016）ISBN:978-4498022621

[授業外学修（予習・復習）等]

日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。

http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf

<https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html>

そのほかは講義で指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H136 LJ90											
授業科目名 <英訳>		統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 大森 崇 統計数理研究所 逸見 昌之							
配当学年		専門職		単位数		2		開講年度・開講期		2025・前期			
曜時限		木4		授業形態		講義・演習（対面授業科目）				使用言語		日本語	
[授業の概要・目的]													
この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の土台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。 前半の確率論では、数学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数（大学学部教養レベルの数学）を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方と理論的な側面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足固めをするのが目的である。 受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。													
【パワーポイントスライドと板書による講義形式】													
[到達目標]													
・確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかり理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる。 ・他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせずに、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる。													
[授業計画と内容]													
第1回		4月10日		講義の概要と確率・確率変数の概念									
第2回		4月17日		離散型確率変数の確率分布とその性質									
第3回		4月24日		連続型確率変数の確率分布とその性質									
第4回		5月1日		複数の確率変数の取り扱いⅠ									
第5回		5月8日		複数の確率変数の取り扱いⅡ									
5月15日		休講											
第6回		5月22日		正規標本に関連する確率分布									
第7回		5月29日		統計的推定の基本事項									
第8回		6月5日		統計的仮説検定の基本事項Ⅰ									
第9回		6月12日		統計的仮説検定の基本事項Ⅱ									
第10回		6月19日		線形回帰分析の基礎Ⅰ									
第11回		6月26日		線形回帰分析の基礎Ⅱ									
7月3日		休講											
第12回		7月10日		漸近的方法の基本事項Ⅰ									
第13回		7月17日		漸近的方法の基本事項Ⅱ									
第14回		7月24日		漸近的方法の基本事項Ⅲ									
----- 統計的推測の基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----													

統計的推測の基礎(2)

[履修要件]

- ・微積分と線形代数の基本的な知識があること。
- ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。

[成績評価の方法・観点]

レポート試験、理解度に対する課題の採点を素点（100点満点）で評価する。

[教科書]

講義資料を配布します。

[参考書等]

（参考書）

必要に応じて講義中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・受講生のこの授業の内容の習得状況は様々だと思いますが、この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習してください。
- ・この講義に限らず、数理的な講義の内容を理解し習得するためには、講義に出席するだけでは不十分で、自ら講義後に手を動かして計算や論理を丁寧に確かめる必要があります。特にこの講義で扱う内容は、数理的な要素が絡む他の統計関連の講義の理解のために非常に重要であるため、復習には必ずじっくり取り組んでください。
- ・臨床統計家育成コースには、この授業の他に演習が用意されています。基礎に不安のある方や、自分で演習等が困難な方は特に、演習も利用してください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H112 LB90			
授業科目名 <英訳>	臨床試験 Clinical Trial		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 准教授 西山 知佳 京都府立医科大学 教授 手良向 聡 名古屋医療センター臨床疫学研究室 齋藤 明子 室長	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
臨床試験の方法論について、海外の標準的教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちに」の3章、5章、6章、9章、10章、12-15章に沿って講義する。循環器、がん、Translational Research領域の医師主導型臨床試験に実績のある講師3人により、臨床試験の実際について講義する。また、仮想的な臨床試験のプロトコル作成を小グループで行う。MCR必修、CB必修、MPH選択。					
[到達目標]					
- 臨床試験の方法論を理解する。 - 臨床試験プロトコルの記載内容を理解し、プロトコル作成の考え方について、実習を通じて身につける。					
[授業計画と内容]					
- 第1回は先端科学研究棟1階大セミナー室にて対面で行うので、出席すること - 事前学習+講義形式と、実習形式 - 事前学習の詳細については第1回講義で案内する - 実習はプロトコル作成など					
第1回 4月9日 イン트로ダクション（田中） 第2回 4月16日 組織作りと計画（田中） 第3回 4月23日 エンドポイント・ランダム化とブラインドの方法（田中） 第4回 4月30日 プロトコルの逸脱・非劣性試験（田中） 第5回 5月7日 検定の多重性・中間解析・試験経過の把握（田中） 第6回 5月14日 循環器領域の教育介入試験の実際（西山） 第7回 5月21日 がん臨床試験実施上の問題とその対策（齋藤） 第8回 5月28日 RCTからメタアナリシスへ：信頼できるエビデンスはどこに？（担当未定） 第9回 6月4日 プロトコルの統計学的考慮点（手良向） 第10回 6月11日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第11回 6月25日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第12回 7月2日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第13回 7月9日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第14回 7月16日 実習（プロトコル検討会、西山、田中）					
臨床試験(2)へ続く↓↓↓					

臨床試験(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

プロトコル作成実習の成果（仮想プロトコル）で臨床試験に関する理解を評価し、100点満点の素点で採点する。

[教科書]

S. J. ポコック 『クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ』（篠原出版）
教科書の入手については第1回でアナウンスする。

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」を適宜読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H135 LJ90			
授業科目名 <英訳>	臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期前半
曜時限	水5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
第Ⅱ相・第Ⅲ相臨床試験デザインの理解とサンプルサイズ計算の習得を目標に、講義・実習を行う。第1回の前に講義動画・課題などを配信するので、それを用いて予習・復習をすること。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。					
[到達目標]					
- 第Ⅱ相・第Ⅲ相臨床試験におけるサンプルサイズの計算を習得する。 - 試験デザインにおける頻度論・Bayes流統計学の考え方の違いを理解する。					
[授業計画と内容]					
- 教室は、G棟セミナー室Bで行う - 事前学習+講義形式、実習形式 - 第1、2、5、6回の実習ではサンプルサイズの計算を行うが、ソフトウェアの知識は前提としない。第3、4回では臨床試験の論文を読み、結果を解釈する。 - 実習のチューターは、臨床統計スタッフが行う。					
第1回 10月1日 サンプルサイズ設計1 連続データ 第2回 10月8日 サンプルサイズ設計2 2値データ 第3回 10月15日 臨床試験の結果の解釈 第4回 10月22日 臨床試験の結果の解釈 第5回 10月29日 サンプルサイズ設計3 生存時間データ 第6回 11月5日 サンプルサイズ設計4 第Ⅱ相臨床試験・Bayes流統計学 第7回 11月12日 予備日					
[履修要件]					
前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること					
[成績評価の方法・観点]					
サンプルサイズ計算の演習が正しくできたかどうかに基づいて臨床試験デザインに関する理解を評価し、100点満点の素点で採点する。					
[教科書]					
教科書の一部をまとめた公式・数表集を配布する。					
-----臨床試験の統計的方法(2)へ続く↓↓↓					

臨床試験の統計的方法(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修（予習・復習）等]

第1回の前に配信する講義動画・課題などを用いて、予習・復習を行う。詳細はメール等でアナウンスする。

(その他（オフィスアワー等）)

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8K025 LJ90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究データ管理学（MCR・CB限定） Data management for Clinical Research		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定准教授 中尾 葉子	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期前半
曜時限	金1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
質の高い臨床研究を完遂させ、信頼性の高い研究成果を得るためには、適切なデータ管理が不可欠である。ナショナルデータベース、大規模レセプトデータ、ライフコースデータ等を用いたデータベース研究、疾患レジストリ研究や住民コホート研究等において必要なデータ管理に関して、実例を用いて講義および演習を行う。本授業では、データの整理・統合・品質管理・解析準備までの実践的スキルを身につけ、研究活動に活かすことを目的とする。MCRおよびCB限定。					
[到達目標]					
1. 臨床研究におけるデータ管理の重要性を理解し、適切な手法を説明できる。 2. 研究目的に応じ、適切にデータソースを選択・管理できる。 3. データの欠測や異常値を特定し、クリーニングや統合を実践できる。 4. 解析用データセットを作成し、再現性のある管理手法を適用できる。 5. 研究現場でのデータ管理の課題を特定し、適切な解決策を提案できる。					
[授業計画と内容]					
第1回（10/3）：データ管理学とは（中尾） 第2回（10/10）：疾患レジストリ・住民コホート研究におけるデータ管理（中尾） 第3回（10/17）：データベース研究の基礎と位置付け、適切なデータベースの選択（高山） 第4回（10/24）：データマネジメントとセキュリティ（矢内） 第5回（11/7）：多種多様な医療データベース（矢内） 第6回（11/14）：レセプトデータの構造と管理（深澤） 第7回（11/21）：解析用データセットの作成（深澤）					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業態度：授業への取り組み姿勢（授業中の発言やレスポンスカードの記載内容等）により、授業への関心や意欲の評価を行う（30点） レポート：テーマへの適切な関与、理解と洞察の深さ、論理的展開と分析、創造性と独自性、その他（70点）					
[教科書]					
使用しない					
臨床研究データ管理学（MCR・CB限定）(2)へ続く↓↓↓					

臨床研究データ管理学（MCR・CB限定）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

課題研究でデータを扱う際に復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

実習でノートパソコンを使用するため、持参すること。また、上記授業予定は受講生の理解度・興味により若干の変更を伴う場合もある。

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H140 LB90					
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 国立循環器病研究センター 附属病院 附属病院	特定教授 教授 朝倉 講師 助教	田中 司朗 森田 智視 朝倉 こう子 日高 優 上野 健太郎
配当学年	専門職	単位数		2	開講年度・開講期		2025・通年集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習 (対面授業科目)		使用言語	日本語	
[授業の概要・目的]							
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的能力(態度、技能、知識)を習得することを目指します。 研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。							
[到達目標]							
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。							
[授業計画と内容]							
京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターにて、7月から9月に集中講義実習を実施します。京都大学医学部附属病院に1日間(1限～6限, 8:45～19:45), 国立循環器病研究センターに6日間(9:30～11:00/11:15～12:45/13:45～15:00/15:15～17:00)訪問します。 京都大学医学部附属病院の講義実習の内容(今年度は1日で一部を実施します) ・臨床統計家としての心構え ・統計コンサルティング業務 ・プロジェクトマネジメント業務について ・規制当局対応業務について ・モニタリング業務について ・データマネジメント業務について ・臨床試験コーディネータ(CRC)の役割について							
-----臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)へ続く↓↓↓							

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)

- ・医療イノベーションと知的財産
- ・医学研究における倫理
- ・治験薬の管理体制の現場
- ・臨床検査データと検査部見学
- ・先端医療研究の現場 (CiRA見学)
- ・放射線診断と現場見学

国立循環器病研究センターの講義実習の内容

- ・研修概要説明・病院見学
- ・循環器疾患基礎
- ・臨床試験立案
- ・ランダム化割付
- ・標本サイズ設計
- ・統計解析計画書
- ・グループワーク：ランダム化割付システム演習
- ・グループワーク：標本サイズ設計演習
- ・医療機器研究開発: 動物実験施設見学
- ・CRC患者対応同伴

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて臨床研究の理解を評価し100点満点の素点で採点する。平常点（出席状況など）も考慮する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修（予習・復習）等]

実習中に指示する。

(その他（オフィスアワー等）)

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H147 PB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 国立循環器病研究センター 附属病院 附属病院	特定教授 田中 司朗 教授 森田 智視 朝倉 こう子 講師 日高 優 助教 上野 健太郎
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的能力(態度, 技能, 知識)を習得することを目指します。なお臨床研究実地研修IIは、Iに続いて、より高度な内容を扱います。 研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術（医薬品など）開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。					
[到達目標]					
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。					
[授業計画と内容]					
7月から9月に集中講義実習を実施します。京都大学医学部附属病院に5日間（1限～6限，8:45～19:45）訪問します。 京都大学医学部附属病院の講義実習の内容 ・事前課題発表・ディスカッション ・プロトコル作成とデータベース構築実習・ディスカッション ・統計解析計画実習 ・SASプログラム実習 ・統計解析実習・ディスカッション ・臨床試験の論文報告実習 ・統計解析報告発表・ディスカッション ・臨床家による実際の臨床試験紹介 ・標準業務手順書について					
臨床研究実地研修II (CB限定) (2)へ続く↓↓↓					

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)

- ・統計解析結果の品質保証
- ・総括報告書について

国立循環器病研究センターの講義実習の内容（今年度は実習対象ではありませんので参考情報です）

- ・研修概要説明・病院見学
- ・循環器疾患基礎
- ・倫理・患者同意
- ・統計解析
- ・統計解析報告書・総括報告書・論文公表
- ・統計解析相談・臨床研究相談
- ・臨床試験のデータマネジメント
- ・臨床試験のモニタリング
- ・グループワーク：データマネジメント演習
- ・グループワーク：統計解析演習
- ・臨床試験のモニタリング見学

[履修要件]

臨床研究実地研修Iを修了していること

[成績評価の方法・観点]

実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて臨床研究の理解を評価し100点満点の素点で採点する。平常点（出席状況など）も考慮する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
実習中に指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

実習中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H176 LJ90			
授業科目名 <英訳>	データ解析の方法 Methods of Data Analysis		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
前期コア科目「医療データ科学」で示した基本的な考え方にに基づき、幅広い社会医学健康医学研究を想定した基本的なデータ解析の方法について講義します。前期コア科目「医療データ科学」と同様、数学的、技術的な議論には極力立ち込まず、「どのような方法か」の本質を理解できるような解説を試みます。 履修条件に注意してください。					
[到達目標]					
・社会健康医学の幅広い研究・実践において有用となるデータ解析の基本的な方法について理解できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 (10/7) 連続的データの解析 第2回 (10/14) 離散的データの解析 第3回 (10/21) 回帰モデリング1 各種回帰分析、一般化線型モデル 第4回 (10/28) 回帰モデリング2 変数選択。探索と検証。説明と予測 第5回 (11/11) 交絡調整 1 有向非巡回グラフ、回帰分析による調整、標準化 第6回 (11/18) 交絡調整 2 傾向スコア解析 第7回 (12/2) 生存時間解析 第8回 (12/9) 相関のあるデータの解析 第9回 (12/16) ベイズ統計 第10回 (12/23) 欠測データの解析 第11回 (1/6) 機械学習1 教師あり学習 第12回 (1/13) 機械学習2 教師なし学習 第13回 (1/20) 機械学習3 深層学習、大規模言語モデルなど 第14回 (1/27) 診断・予後研究における予測解析の報告					
[履修要件]					
・前期コア科目「医療データ科学」を履修済みであること。 ・受講者は単位不要でもミニテストを受けてください。 ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。					
[成績評価の方法・観点]					
講義内のミニテスト（80%）、ディスカッションへの積極的な参加（20%）。理解度を素点（100点満点）で評価する。					
[教科書]					
前期「医療データ科学」配布資料。 講義スライド資料を配布します。					
----- データ解析の方法 (2)へ続く ↓ ↓ ↓					

データ解析の方法 (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前期コア科目「医療データ科学」の資料を復習してください。

(その他（オフィスアワー等）)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H175 PJ90			
授業科目名 <英訳>	医療データ科学実習 Practice of Biomedical Data Science		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3,4	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
医療データ科学実習では、医療データ科学（コア）の講義で学んだ医療データ科学の考え方を実際に実践することでその理解の定着を図ることを目的とします。フリーのデータ解析のソフトウェアとして今日幅広く使用されている「R」を用いた実習を中心に行います。後半は、様々な実データを解析し、結果を整理してプレゼンテーションするグループ実習を行います。本実習の受講にあたり、各自のノートパソコン（Windows, Mac）を持参してください。					
[到達目標]					
・医療データ科学の考え方、基本的なデータ解析法についての理解を深める。 ・データ解析ソフトを用いて、データ読み込みからデータ解析までを適切に行い、解析結果を適切に解釈できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 (4/8) データ解析ソフト「R」事始め、インストール、環境設定 第2回 (4/15) データセットの作成 第3回 (4/22) データの集計 第4回 (5/13) グラフの作成1 第5回 (5/20) グラフの作成2 第6回 (5/27) 記述統計 第7回 (6/3) シミュレーション、統計的推測の基本概念 第8回 (6/10) サンプルサイズ設計 第9回 (6/17) グループ実習1 データ選択・収集、解析計画書 第10回 (6/24) グループ実習2 データ解析 第11回 (7/1) グループ実習3 データ解析 第12回 (7/8) グループ実習4 報告資料の作成 第13回 (7/15) 診断・予後解析研究におけるデータ解析 第14回 (7/22) グループ実習5 プレゼンテーション					
[履修要件]					
・履修者は40名を上限としますので、社会健康医学系専攻の履修者を優先します。 ・毎年上限以上の履修希望者がいて、希望通りに受け入れられない状況ですが、例年、途中から「参加できなくなった」という受講者がいます。参加できなくなる可能性のある場合は受講を遠慮してください。 ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。 ・医科学修士、医学博士課程の受講希望者は事前に連絡してください。					
[成績評価の方法・観点]					
数回の個人レポートとグループによるプレゼンテーションと質疑応答を評価する。 （レポート70%、グループ実習でのプレゼンテーションと質疑応答30%）。理解度を素点（100点					
-----医療データ科学実習 (2)へ続く↓↓↓					

医療データ科学実習 (2)

満点) で評価する。

[教科書]

毎回実習の手引きを配布します。

[参考書等]

(参考書)
実習内で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

レポート提出があります。

(その他（オフィスアワー等）)

途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H022 PJ90			
授業科目名 <英訳>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3,4	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
解析計画実習では、「データ解析の方法」の講義で学んだ基本的なデータ解析の方法を実際に実践することでその理解の定着を図ります。主に三つのパートから構成されます： ・データ解析ソフトRを用いた実習（各自ノートパソコンを持参） ・過去の医学論文をレビューし、プレゼンを行うグループ実習 ・自身の課題研究の解析計画を作成する解析計画実習 履修条件に注意してください。					
[到達目標]					
・基本的なデータ解析法を理解し、データ解析ソフトを用いて適切に実行し、結果を解釈できる。 ・医学論文の読み方を習得し、研究デザイン・データ解析の方法と解析結果を正しく理解し、考察できる。 ・課題研究の解析計画書を作成できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 (10/7) Rを用いたデータ分析（復習、環境設定）、医学論文の調査 第2回 (10/14) 連続的データの解析 第3回 (10/21) 離散的データの解析 第4回 (10/28) 回帰モデリング 第5回 (11/11) 交絡調整 1 第6回 (11/18) 交絡調整 2 第7回 (12/2) 生存時間解析 第8回 (12/9) グループ実習 1 医学論文のレビュー 第9回 (12/16) グループ実習 2 医学論文のレビュー 第10回 (12/23) グループ実習 3 医学論文の発表会 第11回 (1/6) 解析計画書作成1 第12回 (1/13) 解析計画書作成2 第13-14回 (1/20, 1/27) 解析計画書発表会					
[履修要件]					
・前期コア科目「医療データ科学」を履修済みであること。 ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。					
----- 解析計画実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----					

解析計画実習(2)

[成績評価の方法・観点]

グループ・個人のレポート（80%）、発表会での発表と質疑（20%）。理解度を素点（100点満点）で評価する。

[教科書]

前期「医療データ科学」、「医療データ科学実習」資料
毎回、実習の手引きを配布します。

[参考書等]

（参考書）
実習内で紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

前期選択科目「医療データ科学実習」を復習してください。

（その他（オフィスアワー等））

※途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H144 SB90			
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎・演習（CB限定） Practicum in Fundamentals of Statistical Inference		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 統計数理研究所 逸見 昌之	
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	(前):木6/(後):木5	授業形態	演習（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
この授業では、「統計的推測の基礎」の講義進捗に合わせて、前半では統計的推測全般に係る基礎事項の演習問題に取り組み、後半では統計的推測（推定・仮説検定・信頼区間）の具体的な演習問題に取り組む。 この授業の全体を通じての目的は、「統計的推測の基礎」で扱う各テーマの具体的問題を通じての理解および定着と、それらを通じて得られる統計的推測の基本的な考え方を身に付けることである。前半の演習では、統計関連科目を学ぶ上で必要な計算能力を身につけ、後半の演習では、臨床統計学が応用される現実的問題に近い問題設定に取り組むことで、統計的推測がどのように用いられるかを知り、その有用性を理解する。 【演習形式】（6月5日まで6限、12日からは5限に開講）					
[到達目標]					
・統計的推測および関連する統計手法に必要な技術を理解し、応用することができる。 ・基本的な統計量の意味や性質を理解し、それらを自らの手で計算することができる。 ・統計的推測の基本事項が、実際の臨床研究等のどのような場面で必要になるかを理解し、応用上重要な基本的問題を解くことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回	4月10日	講義の概要と確率・確率変数の概念			
第2回	4月17日	離散型確率変数の確率分布とその性質			
第3回	4月24日	連続型確率変数の確率分布とその性質			
第4回	5月1日	複数の確率変数の取り扱いⅠ			
第5回	5月8日	複数の確率変数の取り扱いⅡ			
5月15日	休講				
第6回	5月22日	正規標本に関連する確率分布			
第7回	5月29日	統計的推定の基本事項			
第8回	6月5日	統計的仮説検定の基本事項Ⅰ			
第9回	6月12日	統計的仮説検定の基本事項Ⅱ			
第10回	6月19日	線形回帰分析の基礎Ⅰ			
第11回	6月26日	線形回帰分析の基礎Ⅱ			
7月3日	休講				
第12回	7月10日	漸近的方法の基本事項Ⅰ			
第13回	7月17日	漸近的方法の基本事項Ⅱ			
第14回	7月24日	漸近的方法の基本事項Ⅲ			
----- 統計的推測の基礎・演習（CB限定）(2)へ続く↓↓↓					

統計的推測の基礎・演習（CB限定）(2)

[履修要件]

・臨床統計家育成コース限定科目です。

[成績評価の方法・観点]

毎回のレポートで評価します（理解度に対する課題の素点（100点満点））。

[教科書]

演習の資料を配布します。

[参考書等]

（参考書）

個々の進捗に合わせて、授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

・同日に開催される「統計的推測の基礎」と合わせて履修することで、予習は必要ありません。ただし、微積分や線形代数等の基本的な計算技術に不安があるときは、教員と相談しながら、各自勉強を進めてください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H139 LJ90			
授業科目名 <英訳>	臨床統計家の実務スキル（CB限定） Practical Skills for Clinical Biostatisticians		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	実習（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
臨床研究を行う中での統計家の役割を意識し、実務において必要となるドキュメント、統計解析ソフトSASとRのプログラミング、統計コンサルテーションの行い方を学びます。また、実際の臨床試験を意識した解析プログラムと統計解析の報告書を作成し、発表するとともに、統計コンサルテーション、医薬品の審査実習を実施します。					
【パワーポイントによる講義と統計ソフトによる実習】					
[到達目標]					
・ 臨床研究の実務における統計ソフトのプログラミングの必要性を説明できる。 ・ 集計・グラフ・統計解析のためのプログラムを作成できる。 ・ データを読み込み、解析に適したデータセットに加工できる。 ・ 表・リスト・図を作成し、出力できる。 ・ 統計コンサルテーションを行うことができる。 ・ 医薬品の承認申請の資料を読み、医薬品の審査を体験する。					
[授業計画と内容]					
第1回	4月14日	ガイダンス、SASとR入門、臨床研究の統計支援業務			
第2回	4月21日	研究計画書、標準業務手順書、データの読み込み			
第3回	4月28日	医薬品の審査実習1			
第4回	5月12日	医薬品の審査実習2			
第5回	5月19日	統計手法の学び方（ゲストを迎えて）			
第6回	5月26日	医薬品の審査実習発表会			
第7回	6月2日	統計解析計画書、データセットの加工			
第8回	6月9日	回帰モデルを用いた解析の基礎			
第9回	6月16日	統計コンサルテーション（その1）			
第10回	6月23日	統計コンサルテーション（その2）			
第11回	6月30日	表・図・リスト			
第12回	7月7日	SASのマクロとRの関数			
第13回	7月14日	シミュレーション			
第14回	7月21日	課題の発表とクラスディスカッション（実務における統計家の役割）			
-----臨床統計家の実務スキル（CB限定）(2)へ続く↓↓↓					

臨床統計家の実務スキル（CB限定）(2)

[履修要件]

- ・臨床統計家育成コースの学生さんに限定します。
- ・統計ソフトウェア SAS、R、RStudio をインストールしたノートパソコンを持参してください。

[成績評価の方法・観点]

レポート、作成するSAS、Rのプログラム、最終課題のプレゼンテーションと報告

- ・各回のレポートまたはプログラミングの課題を評価します（各回の課題のレポートまたはプログラム50%）。
- ・グループワークでのレポートとプレゼンテーションも評価します（グループワークのレポートとプレゼンテーション10%、最終課題レポート40%）。

[教科書]

講義資料等をPandAにアップします。

[参考書等]

（参考書）

宮岡悦良, 吉澤敦子 『SASプログラミング』（共立出版, 2013）ISBN:978-4320110557
船尾暢男 『The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集』（オーム社, 2016）ISBN:978-4274219580
Kleinman K, Horton NJ 『SAS and R: Data Management, Statistical Analysis, and Graphics, Second Edition』（Chapman and Hall/CRC, 2014）ISBN:978-1466584495

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に終わらなかったプログラミングは次の回までに終わるようにしてください。
授業中に提示される課題を期日までに提出するようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H130 LB90			
授業科目名 <英訳>	健康情報学 I Health informatics I		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫	
				医学研究科 特定教授 高橋 由光	
				大東文化大学 教授 杉森 裕樹	
				株式会社PDS総合研究所 代表取締役社長／日本MBTI協会 代表理事	園田 由紀
				国立がん研究センターがん対策情報センター 副本部長	若尾 文彦
				附属病院 特定教授	加藤 源太
				株式会社情報システムエンジニアリング 代表取締役社長	黒田 聡
				静岡社会健康医学大学院大学 准教授	藤本 修平
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。					
教育・学習方法 講義形式と実習					
[到達目標]					
・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。					
[授業計画と内容]					
（※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい）					
第1回	10月3日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（1）（中山）			
第2回	10月10日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（2）（中山）			
第3回	10月17日	インターネットとe-ヘルス（高橋）			
第4回	10月24日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション（中山）			
第5回	11月7日	ナラティブ情報の意義と可能性（中山）			
第6回	11月21日	医療におけるデータの二次利用の課題（加藤）			
第7回	11月28日	健康情報を巡る話題:テクニカル・コミュニケーションの視点から（黒田）			
第8回	12月5日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備（若尾）			
第9回	12月12日	質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える（中山・藤本）			
第10回	12月19日	AI時代の健康情報を考える（中山）			
第11回	1月9日	健康情報ワールドカフェ（中山）			
第12回	1月16日	ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション（杉森）			
第13回	2月5日	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI（エムビーティー）			
健康情報学 I (2)へ続く↓↓↓					

健康情報学 I (2)

アイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分～17時30分 (園田)
第14回 2月6日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI (エムビーティー
アイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時～12時、13時～16時 (園田)
第15回 2月13日 総合討論・個別発表 「健康情報学Iを履修して」 (中山)

※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。

[履修要件]

疫学または根拠に基づく医療 (evidence-base medicine: EBM) の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート提出80%、発表20%

[教科書]

講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入 (4200円程度)

[参考書等]

(参考書)

中山健夫 著『健康・医療の情報を読み解く (第2版) 健康情報学への招待』 (丸善書店 2014年) ISBN:9784621087329

中山健夫 著『健康情報は8割疑え!: 京大医学部のヘルスリテラシー教室』 (法研 2021年) ISBN:9784865138160

中山健夫・杉森裕樹 監訳『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』 (丸善書店 2015年) ISBN:9784621089545

中山健夫, 藤本修平 編者『実践 シェアード・ディシジョンメイキング 改題改訂第2版』 (医事新報社 2024年) ISBN:97847849146402

宮原 哲・中山 健夫 著『治療効果アップにつながる患者のコミュニケーション力 医師との会話・失敗例と成功例をケースごとに解説』 (朝日新聞出版 2023年) ISBN:9784023322790

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習よりも復習に十分時間を取ることを

(その他 (オフィスアワー等))

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H151 LB90			
授業科目名 <英訳>	健康情報学 II Health informatics II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 高橋 由光 医学研究科 准教授 西川 佳孝		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3,4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
・健康情報とICT：インターネットの基礎知識、eヘルス、ヘルスケアにおけるICT（Information and communication technology）について講義を行います。公的統計データ、各種二次データ、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）などを例に、医療ビッグデータの現状および利活用について講義を行います。国民生活基礎調査匿名データを使った実習を行います。（担当：高橋） ・地域薬局における薬局業務の拡大・患者ケア：社会の高齢化と医療の高度化により、地域の薬局が果たす役割は薬剤供給のみならず、地域住民の健康を支える業務にまで拡大しています。この薬局の役割の変化について国内外の事例を紹介します。また、国内薬局で糖尿病や高血圧患者を対象に実施されたCOMPASS研究で使われた患者支援の背景にある行動経済学のナッジや健康行動科学による患者支援のスキルについても紹介します。（担当：岡田浩先生） ・災害と健康情報：災害による健康影響について学習し、災害時に必要な健康情報について議論します。防災のための健康情報とその特徴について学習します。事例研究や症例報告の手法について紹介します。（担当：西川）					
[到達目標]					
・インターネットの基礎知識、eヘルス、インターネット調査の特徴（利点および欠点）を習得。公的統計データ、医療ビッグデータ、個人番号制度、ライフコース疫学についての基礎知識を習得 ・世界の保健行政の中での地域薬局の役割の変化に関する知識の習得。薬局におけるプライマリケアへの関与についてのエビデンス、患者の自己決定を尊重しながら、生活習慣改善を促す手法（行動経済学、ナッジ）に関する知識の習得。 ・災害と健康についての基礎知識の習得。事例研究方法の基礎知識の習得。					
[授業計画と内容]					
10/3 4限 イン트로、ヘルスリテラシー（高橋） 10/10 4限 インターネットの基礎知識（高橋） 10/17 3限 地域における薬局業務の拡大（岡田浩先生） 4限 地域薬局での患者ケア（岡田浩先生） 10/24 4限 ヘルスケアとICTに関する各種ガイドライン（高橋） 10/31 4限 休講 11/7 4限 災害と健康情報1：災害による健康影響・災害時の健康情報（西川） 11/14 3限 災害と健康情報2：防災のための健康情報とその特徴（西川） 4限 災害と健康情報3：事例研究の方法（西川） 11/21 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用 Aグループ（高橋） 11/28 4限 インターネット調査フォーム作成（高橋） 12/5 4限 予備					
健康情報学 II (2)へ続く↓↓↓					

健康情報学 II (2)

12/12 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用 Bグループ (高橋)
12/19 4限 予備
12/26 4限 予備
1/9 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用 Cグループ (高橋)
1/16 3-4限 ヘルスケアとICTの事例紹介 (高橋)
1/23 3限 社会ネットワーク分析 (高橋)
4限 ライフコース疫学・社会疫学・まとめ (高橋)
1/30 休講
2/6 休講
2/13 予備

開講日は変更する場合がありますので、ご注意ください。

[履修要件]

健康情報学Iを、可能な限り履修するようにしてください。

[成績評価の方法・観点]

平常点 (出席を含む) (30%) およびレポートまたは発表 (70%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習用の教材・資料を、適宜提供します。

(その他 (オフィスアワー等))

学習支援システムのサイトを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録 (仮で可) を行ってください。

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可
ただし、履修希望者が多い場合は人数制限の可能性あり。
初回講義の前に、必ずメールをしてください。
takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H079 LB90			
授業科目名 <英訳>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	後期後半 水2	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語 日本語
[授業の概要・目的]					
前週までの「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。 【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、白沢博満（MSD株式会社・副社長）、堀井郁夫（英国ケンブリッジ大学・客員教授）、佐藤泉美（長崎大学・教授）、Christian Elze（Catenion社・シニアパートナー）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）、永野裕明（財務省主計局）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）、橋本紘幸（厚生労働省医政局）					
[到達目標]					
・ 医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。 ・ 費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。 ・ 薬剤疫学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。					
[授業計画と内容]					
第 1回	11月19日	Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze)			
第 2回	11月26日	医薬品の創製、毒性と安全性	(堀井)		
第 3回	12月 3日	薬剤疫学概論	(佐藤)		
第 4回	12月10日	グローバル製薬企業の動向と開発薬事	(白沢)		
第 5回	12月17日	医療リアルワールドデータと医薬品評価	(川上)		
第 6回	12月24日	医薬経済概論：費用対効果と薬価の考え方	(大西)		
第 7回	1月 7日	日本の財政状況と医療・福祉	(永野)		
第 8回	1月14日	市販後調査、市販後臨床試験	(漆原)		
第 9回	1月28日	医療DXの最近の取組について	(橋本)		
----- 医薬品の開発と評価(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

医薬品の開発と評価(2)

[履修要件]

本コースの前週まで講義が行われるH109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。

[成績評価の方法・観点]

講義の場への参加（50点）、レポート（50点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版, 2006.）ISBN:978-4320061576

川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗（監修）『ストロムの薬剤疫学』（南山堂, 2019.）ISBN:978-4525183912

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

川上浩司 G 棟3 階・内線：9469 (代表)
面談希望は必ずメールでご連絡下さい。
kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H099 LB90			
授業科目名 <英訳>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3,4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、田中司朗（臨床統計学・特定教授）、佐々木まどか（近畿大学大学院・特任准教授）、山田弘（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）、笠井 宏委（東北大学病院 臨床研究推進センター 臨床研究パートナー部門）、山本晴子（国立循環器病研究センター理事・データサイエンス部長）、所 哲哉（サナメディ株式会社）、藤原康弘（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）・理事長）、脇谷滋之（武庫川女子大学・教授）、瓜生原葉子（同志社大学・教授）、Christian Elze（Catenion社・シニアパートナー）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）、寺島 玄（株式会社JMDC）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）、深澤俊貴（デジタルヘルス学・特定講師） コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の選択科目の一つです。 医薬品開発の全体戦略、新薬創出や毒性への対処、標準治療確立のための臨床試験のプロトコル作成、臨床試験の計画と実施中のプロジェクトマネジメントの基礎と実際、PRO研究の実際、薬価の交渉、市販後臨床試験の考え方について学びます。また、医薬品や医療機器の開発と行政当局における開発の考え方と審査の考え方と薬事対応方法について、行政当局の元審査官の講師陣により理化学試験と製造、非臨床試験、臨床審査、および承認の考え方につき網羅的に講義と実習を通して学びます。 学習到達目標（このコース終了時までには習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。 教育・学習方法 ・講義、審査・開発実習、討議					
[到達目標]					
学習到達目標（このコース終了時までには習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。					
[授業計画と内容]					
第1回 10月1日 アカデミアにおける医薬品開発とトランスレーショナルリサーチ（田中） 第2回 10月8日 臨床試験 開発と審査：臨床評価（藤原） 第3回 10月22日 臨床試験 開発と審査：CMC（川上）					
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)へ続く↓↓↓					

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)

第4回	10月29日	臨床試験 開発と審査：非臨床試験	(佐々木)
第5回	11月5日	臨床試験のプロジェクトマネジメントの基礎と実習	(笠井)
第6回	11月12日	臨床試験 開発と審査：医療機器(1)	(山本)
第7回	11月19日	The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation	(Elze)
第8回	11月26日	医薬品開発における安全性データ評価とAI	(山田)
第9回	12月3日	臨床試験 開発と審査：再生医療	(脇谷)
第10回	12月10日	医療品のライフサイクルマネジメントと行動科学	(瓜生原)
第11回	12月17日	薬剤疫学方法論実習	(深澤)
第12回	12月24日	医薬経済評価：費用対効果研究実習	(大西)
第13回	1月7日	臨床試験 開発と審査：医療機器(2)	(所)
第14回	1月14日	臨床試験 開発と審査：製造販売承認後	(漆原)
第15回	1月28日	医療系データベースを用いた医療・健康評価の実績	(寺島)

[履修要件]

臨床試験の実施や審査、医薬品や医療機器の事業戦略、開発やアウトカム研究トップの方々を講師にお迎えしています。後期2限に開講されるH109「医薬政策・行政」H079「医薬品の開発と評価」を受講していることを必須とします。本科目のみの受講は認めません。

[成績評価の方法・観点]

実習への参加（50点）、レポート（50点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版, 2006.）ISBN:978-4320061576

川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗（監修）『ストロムの薬剤疫学』（南山堂, 2019.）ISBN: 978-4525183912

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜予習復習を求める。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H145 LB90			
授業科目名 <英訳>	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松井 茂之 医学研究科 特定教授 大森 崇 順天堂大学 坂巻 顕太郎	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	金2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
検証的な臨床試験において、試験薬に関するいくつかの用量のそれぞれをプラセボと対比較する場合のように、1つの臨床試験で検証を目的とする検定が複数回行われることがあります。このような場合、第一種の過誤確率（type I error rate）に関する多重性を考慮した解析が必要です。本講義では、複数回の検定が行われるいくつかの状況設定において、試験計画、解析、結果の解釈で検定の多重性をどう考慮するかを理解を目指します。一部SASによる実習も行います。 第4回は北海道大学 横田勲先生に、第5回は東京大学 上村鋼平先生、第6回は東京理科大学 寒水孝司先生にご講義いただきます。 【パワーポイントスライドによる講義形式】					
[到達目標]					
- 臨床試験における検定の多重性に関する問題を理解する。 - 仮説の構造に対応する適切な統計手法を説明できる。 - 用量－反応関係、中間解析、サブグループ解析などにおける多重性について理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 4月11日 検定の多重性の基礎（坂巻） 第2回 4月18日 分散分析に関連する多重比較の問題（坂巻） 第3回 4月25日 閉検定手順とその発展（坂巻） 第4回 5月 2日 中間解析におけるアルファ消費関数法（横田） 第5回 5月 9日 最近の事例を中心に（上村） 第6回 5月23日 複数の主要評価変数を用いる臨床試験の実際（寒水） 第7回 5月30日 SASによる実習（大森、大宮）					
[履修要件]					
「統計的推測の基礎」を履修済みであること。 - SAS が使用可能であること。					
[成績評価の方法・観点]					
レポート試験、理解度に対する課題の採点を素点（100点満点）で評価する。					
----- 多重性の考え方(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----					

多重性の考え方(2)

[教科書]

講義資料を事前にPandAにアップします。

[参考書等]

(参考書)

坂巻 顕太郎, 寒水 孝司, 濱崎 俊光 『多重比較法』 (朝倉書店, 2009) ISBN:978-4254128628

永田靖 『統計的多重比較法の基礎』 (サイエンティスト社, 2007) ISBN:978-4914903466

Dmitrienko A, Molenberghs G, Chuang-Stein C, Offen WW. 『森川・田崎監訳. 治験の統計解析 理論とSASによる実践』 (講談社, 2009) ISBN:978-4061557772

Dmitrienko A, Tamhane AC, Bretz F, eds. 『Multiple testing problems in pharmaceutical statistics』 (CRC Press, 2009) ISBN:978-1584889847

[授業外学修（予習・復習）等]

「統計的推測の基礎」や（CBコースの学生は）「臨床統計家の実務スキル」の内容を十分に復習してください。

毎回の講義の復習が必要です。

(その他（オフィスアワー等）)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H093 LB90			
授業科目名 <英訳>	文献検索法 Literature Search	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 高橋 由光 医学研究科 教授 中山 健夫		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期前半
曜時限	月4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法論について講義を行います。 ・疫学・EBM（根拠に基づく医療）の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学習します。 ・PubMed、コクラン・ライブラリー、医学中央雑誌など代表的な医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の習得を目指します。 ・EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な情報検索法の習得を目指します。 ・教育・学習方法：パワーポイントスライドによる講義と実習					
[到達目標]					
各種文献データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。					
[授業計画と内容]					
原則対面授業ですが、一部メディア活用を行います。 文献検索のハンズオン（対面またはオンライン）も行います。 各自、パソコンおよびインターネットアクセス環境の準備をよろしくお願いします。 第1回 4月14日 オリエンテーション(中山・高橋) 第2回 4月21日 医中誌Web入門(医学中央雑誌) 第3回 4月28日 PubMed入門(医学図書館)【オンデマンド型】 第4回 5月12日 PubMed応用・インターネット検索(高橋) 第5回 5月19日 クリニカル・クエスチョン、診療ガイドライン、 システムティック・レビュー(中山) 第6回 5月26日 コクラン・ライブラリー入門(ワイリー)【同時双方向型】 第7回 6月2日 文献管理入門・Mendeley演習(エルゼビア・ジャパン)【同時双方向型】 第8回 6月9日 文献評価の基本&各種声明(高橋)					
[履修要件]					
特になし					
-----文献検索法(2)へ続く↓↓↓-----					

文献検索法(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート（30%）および課題レポート提出（70%）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で行った検索方法を、自らできるように復習してください。予習が必要な場合は、事前に学習支援システムのサイトにて指示します。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否：受講可
学習支援システムのサイトを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録（仮で可）を行ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H094 LB90			
授業科目名 <英訳>	文献評価法 Critical Appraisal		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 特定教授 高橋 由光 豊田地域医療センター 野口 善令 学術教育顧問 京都府立医科大学 教授 四方 哲 奈良県立医科大学 招聘教授 田中 優 京都市保健福祉局 担当部長 石崎 達郎 静岡社会健康医学大学院大学 佐々木 八十子 講師	
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	前期後半：月4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。 ・疫学・EBM（根拠に基づく医療）の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。					
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり					
[到達目標]					
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。					
[授業計画と内容]					
第1回 4月14日オリエンテーション（中山・高橋） 第2回 6月16日CASPによる臨床試験論文の評価（中山） 第3回 6月23日CASPによるメタアナリシス論文の評価（中山） 第4回 6月30日ケースを用いたバイアスの評価（1）（石崎） 第5回 7月 7日ケースを用いたバイアスの評価（2）（石崎） 第6回 7月14日AGREE法による診療ガイドラインの評価（中山） 第7回 7月28日コクラン・レビューを通して（中山・佐々木） 第8回 8月 4日全体を振り返って（中山）					
特別講義予定あり（野口・四方・田中）					
[履修要件]					
特になし					
----- 文献評価法(2)へ続く↓↓↓ -----					

文献評価法(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート（30%）、課題レポート提出（70%）

[教科書]

講義資料は配布

[参考書等]

（参考書）

中山健夫，津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 Part2』（ライフサイエンス出版 2016年）ISBN:978-4897753454

[授業外学修（予習・復習）等]

予習より復習に時間を取ること

（その他（オフィスアワー等））

EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H146 LB90			
授業科目名 <英訳>	メタアナリシス (CB・MCR限定) Meta-analysis		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗	
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
系統的レビューのための統計手法であるメタアナリシスについて、教科書「新版メタ・アナリシス入門」に沿って講義・実習を行う。CB選択、MPH選択。					
[到達目標]					
・ STATA・Rを用いてメタアナリシスを行う技術を身につける。					
[授業計画と内容]					
・ 講義形式と実習形式、実習は統計ソフトウェアSTATAを用いたデータ解析を行うため、各自でPCを用意すること ・ 実習のアシスタントは、臨床統計スタッフが行う					
第1回 8月25日（月）3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（丸尾） 第2回 8月25日（月）4限 15:00-16:30 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（田中） 第3回 8月26日（火）3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法（3～6章）（田中） 第4回 8月26日（火）4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス（7章、9～10章）（田中） 第5回 8月27日（水）3限 13:15-14:45 多変量・ネットワークメタアナリシス（7章、9～10章）（野間） 第6回 8月27日（水）4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス（7章、9～10章）（田中）					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
メタアナリシスの手法をRまたはSTATAで正しく実行できるかどうかに基づいてメタアナリシスに関する理解を評価し、100点満点の素点で採点する。					
[教科書]					
丹後俊郎 『新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—』（朝倉書店） ISBN:425412760X					
[参考書等]					
(参考書)					
-----メタアナリシス (CB・MCR限定)(2)へ続く↓↓↓					

メタアナリシス (CB・MCR限定)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

STATAの基本的な使用法を理解しておくとしスムーズに実習に取り組める。

（その他（オフィスアワー等））

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。